阿依努神谣故事集

知里幸惠 编译　李辉星 霍欣莹 译　李辉星 责任编辑





译言古登堡计划
Yeeyan Gutenberg Project

版权信息

书名:阿依努神谣集

作者:知里幸惠

译者:李辉星,霍欣莹

中信出版集团制作发行

中文译者序

本书为自古以来生活在日本北海道的阿依努部族内流传的若干神话故事的集合，原搜集、整理、编译者为一名阿依努族少女，名为知里幸惠，她为此书的编写倾注了生命的全部精力，在原书完成之夜即因疾病而逝。但是她的书中集合了日本阿依努文化研究的部分成果，为阿依努文化的保留和向阿依努族外的日本人宣传介绍阿依努文化做出了重要贡献，而且日本政府对待阿依努文化的态度也有了改变。原书由阿依努语和编译后的现代日语组成，所有故事本以歌谣的形式出现，中文译者考虑译后易读性，故重新分段整理，并制作为日中双语对照形式，以方便日语学习及爱好者阅读。对于本书，各位读者如有任何方面的想法及建议，或是批评与指正，恳请积极联系本书译者或译言网古登堡计划的负责人，非常感谢！

本书译者联系方式——
微信号：L323802
QQ：2316668033

序

序

その昔この広い北海道は，私たちの先祖の自由の天地でありました．天真爛漫な稚児の様に，美しい大自然に抱擁されてのんびりと楽しく生活していた彼等は，真に自然の寵児，なんという幸福な人だちであったでしょう．

那时这片广阔的北海道，是我们先祖的自由天地。他们就像天真烂漫的幼儿一样被美丽的大自然环抱，悠闲、舒适、快乐地生活。他们是真正的自然的宠儿，他们是多么幸福的人啊！

冬の陸には林野をおおう深雪を蹴って，天地を凍らす寒気を物ともせず山又山をふみ越えて熊を狩り，夏の海には涼風泳ぐみどりの波，白い鴎の歌を友に木の葉の様な小舟を浮べてひねもす魚を漁り，花咲く春は軟らかな陽の光を浴びて，永久に囀ずる小鳥と共に歌い暮して蕗とり蓬摘み，紅葉の秋は野分に穂揃うすすきをわけて，宵まで鮭とる篝も消え，谷間に友呼ぶ鹿の音を外に，円かな月に夢を結ぶ．嗚呼なんという楽しい生活でしょう．平和の境，それも今は昔，夢は破れて幾十年，この地は急速な変転をなし，山野は村に，村は町にと次第々々に開けてゆく．

冬天，他们踢踏着大地上覆盖林子的深雪，无视漫天的寒气，翻山越岭去狩猎大熊；夏天，他们在海里摇荡着如树叶般的小舟，海上凉风吹来，碧波荡漾，伴以白鸥的歌声终日渔猎；春天，他们在花开时沐浴柔和的阳光，和鸣叫不停的小鸟一块儿歌唱，采蕗摘蓬，快乐生活；秋天，叶红之时，他们拨开原野中长出齐穗的芒草，直到宵夜来临，为捕

鲑鱼而生的篝火熄灭后，返回住所，听着外面山谷中小鹿呼唤朋友的鸣叫声入眠，将自己的梦系往天上圆圆的明月。啊，这是多么快乐的生活啊！但这平和的环境，也在过去的梦幻破灭几十年后，随着这片土地的急速变迁而无法回归，在这片土地上，山野陆续变成了村庄，村庄又陆续变成了城镇。

太古ながらの自然の姿も何時の間にか影薄れて，野辺に山辺に嬉々として暮していた多くの民の行方も亦いずこ．僅かに残る私たち同族は，進みゆく世のさまにただ驚きの眼をみはるばかり．しかもその眼からは一挙一動宗教的感念に支配されていた昔の人の美しい魂の輝きは失われて，不安に充ち不平に燃え，鈍りくらんで行手も見わかず，よその御慈悲にすがらねばならぬ，あさましい姿，おお亡びゆくもの……それは今の私たちの名，なんという悲しい名前を私たちは持っているのでしょう．

久远的自然之貌不知什么时候已模糊于人们的记忆中，曾经在原野山边纵情嬉戏的原住民已无影无踪。仅剩少许我们的族人，不断地对这发展中的土地上的景象惊奇地瞪大眼睛。而且，他们的眼神中，已经没有了过去那种一举一动时都满含着的，受宗教支配而生出的那种虔诚感，过去族人们美丽的灵魂之光已经失去，他们的眼中充满不安，愤愤不平，饱含钝感而又暗黑无助，不知自己该去的方向。他们不得不依赖于周围的人发出的一些慈悲心，看他们可怜的模样吧，这是个即将消亡的种族啊……，但这即是现在我们的名字，我们现在拥有的，是一个多么可悲的名字啊！

その昔，幸福な私たちの先祖は，自分のこの郷土が末にこうした惨めなありさまに変ろうなどとは，露ほども想像し得なかったのでありましょう．

那时，我们幸福的先祖们，绝不会想到自己的乡土，到头来竟会变成这般凄惨模样吧。

時は絶えず流れる，世は限りなく進展してゆく．激しい競争場裡に敗残の醜をさらしている今の私たちの中からも，いつかは，二人三人でも強いものが出て来たら，進みゆく世と歩をならべる日も，やがては来ましょう．それはほんとうに私たちの切なる望み，明暮祈っている事で御座います．

时间不断流逝，时世发展不停。在激烈的竞争中不断惨败、囧态百出的我们这些人中，什么时候也能出现两三个厉害人物的话，那我们能和这个发展中的世界齐头并进的一天，终究会来到吧。这个真的是我们切切的期望，是我们从早到晚不断祈求着的事情。

けれど……愛する私たちの先祖が起伏す日頃互いに意を通ずる為に用いた多くの言語，言い古し，残し伝えた多くの美しい言葉，それらのものもみんな果敢なく，亡びゆく弱きものと共に消失せてしまうのでしょうか．おおそれはあまりにいたましい名残惜しい事で御座います．

但是，我们可爱的先祖在日常起居中为互通情意而使用的很多言语，它们古韵悠然，是我们传承至今的美丽语言，难道连这些语言都会失去主见，和使用它们的即将消亡的老弱者们一起消失吗？啊啊，那是多么令人痛心、惋惜的事情啊！

アイヌに生れアイヌ語の中に生いたった私は，雨の宵，雪の夜，暇ある毎に打集って私たちの先祖が語り興じたいろいろな物語の中極く小さな話の一つ二つを拙ない筆に書連ねました．

生于阿依努，在阿依努语中长大的我，将我每每于雨夜、雪暮之中的空闲时间里所搜集到的，我们的先祖兴味盎然地讲述的诸多故事中极短的一两篇，以我的拙劣之笔，串成了如此一书。

私たちを知って下さる多くの方に読んでいただく事が出来ますな

らば，私は，私たちの同族祖先と共にほんとうに無限の喜び，無上の幸福に存じます．

这本书若能有幸被众多知晓我们存在的读者们读到，我将会和我们同族祖先一块儿，真切地感到无限的喜悦、无上的幸福。

大正十一年三月一日
知里幸惠

一九二二年三月一日
知里幸惠

梟の神の自ら歌った謡「銀の滴降る降るまわりに」
鸺鹠神吟唱的歌谣"银砂下来下来这边落"

「銀の滴降る降るまわりに，金の滴降る降るまわりに．」という歌を私は歌いながら流に沿って下り，人間の村の上を通りながら下を眺めると昔の貧乏人が今お金持になっていて，昔のお金持が今の貧乏人になっている様です．

"银砂下来下来这边落，金砂下来下来这边落。"我一边唱着歌一边沿河道下流方向飞去，飞过人们住的村子上空时向下望了望。好像这村子里的人，过去贫穷的变得富有了，过去富有的变得贫穷了。

海辺に人間の子供たちがおもちゃの小弓におもちゃの小矢をもってあそんで居ります．

海边，这些人的孩子们正拿着玩具小弓和小箭玩得不亦乐乎。

「銀の滴降る降るまわりに，金の滴降る降るまわりに．」という歌を歌いながら子供等の上を通りますと，（子供等は）私の下を走りながら云うことには，

"银砂下来下来这边落，金砂下来下来这边落。"我唱着这首歌经过孩子们上空时，他们边跟在我的下面跑，边嚷嚷道：

「美しい鳥！神様の鳥！さあ，矢を射て，あの鳥神様の鳥を射当てたものは，一ばんさきに取った者はほんとうの勇者，ほんとうの強者だぞ．」

"真漂亮！像神一样的鸟！嗯那个，我们射箭吧，射中那只鸟，而

且最先拿到它的人，是我们这里面真正的勇士，真正的强者！”

云いながら，昔貧乏人で今お金持になってる者の子供等は，金の小弓に金の小矢を番えて私を射ますと，金の小矢を私は下を通したり上を通したりしました．

之前贫穷现在富有的人们的小孩，边这样叫着，边拉开金属小弓搭上金属小箭射向我。金属小箭在我的上面下面不断飞过。

その中に，子供等の中に一人の子供がただの（木製の）小弓にただの小矢を持って仲間にはいっています．私はそれを見ると貧乏人の子らしく，着物でもそれがわかります．けれどもその眼色をよく見ると，えらい人の子孫らしく，一人変り者になって仲間入りをしています．自分もただの小弓にただの小矢を番えて私をねらいますと，昔貧乏人で今お金持の子供等は大笑いをして云うには，

这些孩子中，有一个孩子只是拿着木制小弓和小箭站在中间。我一看就知道他是穷人家孩子，从他穿的衣服就知道了。但细细看他的眼神，却像是伟大人物的后代，让他在这群孩子中显得与众不同。当他也拉开小弓搭上小箭瞄准我时，先前贫穷现在富有的人的孩子们大笑道：

「あらおかしや貧乏の子，あの鳥，神様の鳥は私たちの金の小矢でもお取りにならないものを，お前の様な貧乏な子のただの矢腐れ木の矢をあの鳥，神様の鳥がよくよく取るだろうよ．」

“哎呀呀真奇怪，穷小子，那只神一样的鸟连我们金属做的箭都不接[注]，难道会老实接你这个穷小子的木头箭？你这个穷得只能用朽木做出的箭，那只神鸟会老老实实地接住才怪！”

と云って，貧しい子を足蹴にしたりたたいたりします．けれども貧乏な子はちっとも構わず私をねらっています．

他们边说边对这个穷小子拳打脚踢。但这个穷小子一点儿也不在乎，只是专心致志地将箭瞄准我。

私はそのさまを見ると，大層不憫に思いました．

我看到这个景象，觉得他非常可怜。

「銀の滴降る降るまわりに，金の滴降る降るまわりに．」という歌を歌いながらゆっくりと大空に私は輪をえがいていました．貧乏な子は片足を遠く立て片足を近くたてて，下唇をグッと噛みしめて，ねらっていてひょうと射放しました．小さい矢は美しく飛んで私の方へ来ました，それで私は手を差しのべてその小さい矢を取りました．

“银砂下来下来这边落，金砂下来下来这边落。”我边唱着歌边在空中慢慢地画出一个圆圈。穷小子将一条腿向后迈开，另一条腿稍向前挪支撑身体，紧咬下唇，张弓搭箭瞄准我后，咻地一声将箭射出。小小的箭划出优美的弧线飞到我身边，于是我伸出手来将这支小箭接下了。

クルクルまわりながら私は風をきって舞い下りました．すると，彼の子供たちは走って砂吹雪をたてながら競争しました．土の上に私が落ちると一しょに，一等先に貧乏な子がかけついて私を取りました．

我团团打转破空落下。于是他们这些孩子争先恐后地向我跑来，脚后跟后面扬起沙土。我刚落到地面，穷小子就第一个赶来把我拿了起来。

すると，昔貧乏人で今は金持になってる者の子供たちは後から走って来て二十も三十も悪口をついて貧乏な子を押したりたたいたり「にくらしい子，貧乏人の子，私たちが先にしようとする事を先がけしやがって．」

待过去贫穷现在富有的人的孩子们跑来后，他们就不断谩骂、推搡、殴打这个穷小子，并叫道：“可恶的家伙，本应该我们占先的，被你这个穷小子抢了去！”

と云うと，貧乏な子は，私の上におおいかぶさって，自分の腹にしっかりと私を押えていました．

他们这样说，穷小子就将身子倾向我，并将我牢牢地摁在自己的肚子上。

もがいてもがいてやっとの事，人の隙から飛び出しますと，それから，どんどんかけ出しました．昔は貧乏人で今は金持の子供等が石や木片を投げつけるけれど貧乏な子はちっとも構わず砂吹雪をたてながらかけて来て一軒の小屋の表へ着きました．子供は第一の窗から私を入れて，それに言葉を添え，斯々のありさまを物語りました．

我挣扎来挣扎去，终于从人缝中飞了出去，又继续往前飞了好一阵儿。那些过去贫穷现在富有的人的孩子们一个劲儿地向我投掷石头呀木片呀什么的，但穷小子一点儿也不理会，只管脚后跟扬起沙土跟随我跑来，和我一起来到了一座小屋的门前。小孩打开了第一扇窗子让我进去，然后说话给我听，这个那个地给我讲了一些家里的情况。

家の中から老夫婦が眼の上に手をかざしながらやって来て見ると，大へんな貧乏人ではあるけれども紳士らしい淑女らしい品をそなえています，私を見ると，腰の央をギックリ屈めて，ビックリしました．

家中的老夫妇把手搭在眼皮上方蹒跚而来。看他们的样子，虽然是穷人却各有绅士和淑女的风度，看到我后，他们俩咯嘣一声弯下腰仔细确认，吓了一跳。

老人はキチンと帯をしめ直して，私を拝し

老人将衣带重新系了一遍，仪容端庄地向我拜了一礼，说道：

「ふくろうの神様，大神様，貧しい私たちの粗末な家へお出で下さいました事，有難う御座います．

“鸺鹠神大人，没想到大神大人竟能驾临我们这个贫贱之家，真的万分感谢！

昔は，お金持に自分を数え入れるほどの者で御座いましたが今はもうこの様につまらない貧乏人になりまして，国の神様大神様をお泊め申すも畏れ多い事ながら今日はもう日も暮れましたから，今宵は大神様をお泊め申し上げ，明日は，ただイナウだけでも大神様をお送り申し上げましょう．」という事を申しながら何遍も何遍も礼拝を重ねました．

过去，我们还算是一个富裕人家，但现在已变成了一个微不足道的贫穷破落户，想请国之大神大人您住进我家我觉得非常对不住您，但因今天天色已晚，就委屈大人您暂且住下，待到明天，即便只有木币㊟我也会将大神大人您好好送回。”他这样说着，期间又向我拜了好几次礼。

老婦人は，東の窗の下に敷物をしいて私をそこへ置きました．それからみんな寝ると直ぐに高いびきで寝入ってしまいました．

老妇人在屋内东侧窗下㊟铺好铺盖，把我安置在上面，然后大家即去休息了，不一会儿就有人高声打起呼噜睡着了。

私は私の体の耳と耳の間に坐っていましたがやがて，ちょうど，真夜中時分に起き上りました．

我坐在我身体的两耳之间睡觉[注]，一段时间后，正好半夜时分时我醒了，站了起来。

「銀の滴降る降るまわりに，金の滴降る降るまわりに．」という歌を静かにうたいながらこの家の左の座へ右の座へ美しい音をたてて飛びました．

“银砂下来下来这边落，金砂下来下来这边落。”我边小声唱着歌，边从这个家的左座飞往右座[注]，翅膀不断地拍打出悦耳的响声。

私が羽ばたきをすると，私のまわりに美しい宝物，神の宝物が美しい音をたてて落ち散りました．

我一扑翅膀，身边就有美丽的、神的宝物叮呤一声从空中掉下。

一寸のうちに，この小さい家を，りっぱな宝物，神の宝物で一ぱいにしました．

不一会儿，我就用华丽的、神的宝物将这个小家塞得满满的。

「銀の滴降る降るまわりに，金の滴降る降るまわりに．」

“银砂下来下来这边落，金砂下来下来这边落。”

という歌をうたいながらこの小さい家を一寸の間にかねの家，大きな家に作りかえてしまいました，家の中は，りっぱな宝物の積場を作り，りっぱな着物の美しいのを早つくりして家の中を飾りつけました．

我唱着歌，没用多久就把这个小家变成了一个金银之家，一个大富之家。我还在家中辟了一个地方专门放宝物，又做了些华丽的衣服和饰品，把家里打扮了一个遍儿。

富豪の家よりももっとりっぱにこの大きな家の中を飾りつけました．私はそれを終るともとのままに私の冑の耳と耳の間に坐っていました．

我将这个已然大富的家打扮得比大富豪的家更加气派。做完这些，我又恢复之前的姿势，坐在我甲胄的两耳之间。

家の人たちに夢を見せて，アイヌのニシパが運が悪くて貧乏人になって昔貧乏人で今お金持になっている者たちにばかにされたりいじめられたりしてるさまを私が見て不憫に思ったので，私は身分の卑しいただの神ではないのだが，人間の家に泊って，恵んでやったのだという事を知らせました．

另外我托梦给这家人们，告知了他们这样一件事：阿依努族人的绅士[注]倒霉沦落为穷人，受到那些过去贫穷但现在富有的人们的嘲弄、欺凌，鸺鹠神看到此情景觉得这个绅士可怜，鸺鹠神不是一个身份低微的小神，既然能受绅士一家的照顾在其家中过夜，它就自愿施展神力照顾他们一家人。

それが済んで少したって夜が明けますと家の人々が一しょに起きて目をこすりこすり家の中を見るとみんな床の上に腰を抜かしてしまいました．老婦人は声を上げて泣き，老人は大粒の涙をポロポロこぼしていましたが，やがて，老人は起き上り私の処へ来て，二十も三十も礼拝を重ねて，そして云う事には，「ただの夢ただの眠りをしたのだと思ったのに，ほんとうに，こうしていただいた事．

托梦完毕后经过少许时间天就亮了，家人一块儿醒来，揉了几次眼睛，都不敢相信昨晚发生的事情，确定是事实后，全被吓得瘫坐在地板上。老妇人大声哭泣，老人也是眼泪大颗大颗地往下掉。不一会儿，老人起身来到我跟前，几次三番地向我行礼跪拜，说道：“我以为只是睡了一觉，做了个梦，没想到，大神大人您是真的为我们做了这些事！

つまらないつまらない，私共の粗末な家にお出で下さるだけでも有難く存じますものを国の神様，大神様，私たちの不運な事を哀れんで下さいましてお恵みのうちにも最も大きいお恵みをいただきました事．」と云う事を泣きながら申しました．

太不值得，太不值得了！您能驾临我们这个粗鄙之家我们就非常满足了。但国之神，大神大人您还怜悯我们的不幸，不但给予我们恩惠，而且是恩惠中的最最大的恩惠啊！”老人已泣不成声。

それから，老人はイナウの木をきりりっぱなイナウを美しく作って私を飾りました．

然后，老人砍了些树木，做了华丽的木币饰具将我打扮了一番。

老婦人は身仕度をして小さい子を手伝わせ，薪をとったり水を汲んだりして，酒を造る仕度をして，一寸の間に六つの酒樽を上座にならべました．

老妇人也整理好着装，让自己的小儿子帮忙，砍柴打水，准备酿酒，不一会儿就将六个酒樽摆在了上座方位。

それから私は火の老女，老女神と種々な神の話を語り合いました．二日程たつと，神様の好物ですからはや，家の中に酒の香が漂いました．

之后的空闲时间里我就和这家中掌管火的老女神聊天，相互讲述了其它各个神的故事。这样过了两天，家里面就飘出了阵阵酒香，这可是神灵们也都喜欢的香气！

そこで，あの小さい子に態と古い衣物を着せて，村中の昔貧乏人で今お金持になっている人々を招待するため使いに出してやりました．ので後見送ると，子供は家毎に入って使いの口上を述べますと昔

貧乏人で今お金持になっている人々は大笑いをして

随后，这家人故意给其小儿子穿上古旧过时的衣服，让他去邀请村里以前贫穷现在富裕的人们来家中做客。小儿子每到一家述说过来意后，他们这些以前贫穷现在富裕的人们将其送出门外就大笑道：

「これはふしぎ，貧乏人どもがどんな酒を造ってどんな御馳走があってそのため人を招待するのだろう，行ってどんな事があるか見物して笑ってやりましょう．」と言い合いながら大勢打ち連れてやって来て，ずーっと遠くから，ただ家を見ただけで驚いてはずかしがり，そのまま帰る者もあります，家の前まで来て腰を抜かしているのもあります．

“这可真是不可思议啊，穷光蛋们这是做了什么酒，准备了什么好吃的来招待我们呢？我们去看看好好嘲笑他们一番吧。”一伙人叫叫嚷嚷，结成大队朝穷光蛋家进发，但还离这家远远之时，有人只看到其豪华的外观就觉汗颜了，有人直接掉头回自己家了，也有人一直来到这家门前，被惊吓得瘫倒在地直不起腰来。

すると，家の夫人が外へ出て人皆の手を取って家へ入れますと，みんないざり這いよって顔を上げる者もありません．

见此情景，这家夫人只好出门一个个把着这些人的手请入家中，但大家都畏畏缩缩，不敢上前，连一个抬起头来的人都没有。

すると，家の主人は起き上ってカッコウ鳥の様な美しい声で物を言いました．斯々の訳を物語り

于是，家中的老主人就起身来，用郭公鸟一样美妙的声音，讲述了事情的因果，又说道：

「この様に，貧乏人でへだてなく互に往来も出来なかったのだが

大神様があわれんで下され，何の悪い考えも私どもは持っていませんのでしたのでこの様にお恵みをいただきましたのですから今から村中，私共は一族の者なんですから，仲善くして互に往来をしたいという事を皆様に望む次第であります．」という事を申し述べると，人々は何度も何度も手をすりあわせて家の主人に罪を謝し，これからは仲よくする事を話し合いました．

“事情就是这样，我们是穷人家，难于无隔阂地和大家来往，如今大神大人降临，可怜我们，才给予我们如此恩惠。我们没有特别的意思，就是想我们同为一村、一族的人，期望大家今后能友好往来，和睦相处。”主人说完，大家几番合掌谢罪，承诺以后会和睦往来。

私もみんなに拝されました．

我也被大家行礼拜谢。

それが済むと，人はみな，心が柔らいで盛んな酒宴を開きました．私は，火の神様や家の神様や御幣棚の神様と話し合いながら人間たちの舞を舞ったり躍りをしたりするさまを眺めて深く興がりました．そして二日三日たつと酒宴は終りました．

事情妥善说明后，大家心里都没了负担，开始了盛大的酒宴。我和家中火神、家神、御币棚神(注)边聊天边欣赏人们载歌载舞的样子，觉得非常快乐。酒宴持续了两三天才告结束。

人間たちが仲の善いありさまを見て，私は安心をして火の神，家の神，御幣棚の神に別れを告げました．

看到人们之间和睦相处的情景，我放心了，于是告别了火神、家神、御币棚神。

それが済むと私は自分の家へ帰りました．

然后我回到了自己家中。

私の来る前に，私の家は美しい御幣美酒が一ぱいになっていました.

在我到家之前，家中就已被放满了惹眼的御币和美酒。

それで近い神，遠い神に使者をたてて招待し，盛んな酒宴を張りました，席上，神様たちへ私は物語り，人間の村を訪問した時のその村の状況，その出来事を詳しく話しますと神様たちは大そう私をほめたてました.

我就派使者去请远近的神灵们来家中做客，摆开了盛大的酒宴，席上，我向诸神详细讲述了我访问人类村子时的状况和发生的故事，诸神大大地称赞了我的做法。

神様たちが帰る時に美しい御幣を二つやり三つやりしました.

当他们返回之时，我又送了他们每位两三条漂亮的御币。

彼のアイヌ村の方を見ると，今はもう平穏で，人間たちはみんな仲ょく，彼のニシパが村に頭になっています，彼の子供は，今はもう成人して，妻ももち子も持って父や母に孝行をしています，何時でも何時でも，酒を造った時は酒宴のはじめに，御幣やお酒を私に送ってょこします.

现在再看看这个阿依努村子，已是平和安稳的状态，人们相处和睦，先前那个老绅士，现已成为村人的首领，他的孩子也已成人，娶妻生子，子孙们都同样孝敬父母，不论何时，他们只要酿酒设宴，开宴前定会送与我御币和美酒。

私も人間たちの後に坐して何時でも人間の国を守護っています.

我也秉持着自己的本分稳坐人们的后方，不论何时，一直守护着人类的国度。

と，ふくろうの神様が物語りました.

——以上就是偶鹳神所讲的故事。

---

1. 阿依努族人认为鸟之所以会被射中，是因为它们想要那只箭，所以伸出“手”，即翅膀来接。
2. 木币为阿依努族的祭祀用具。
3. 阿依努族人将临近东侧窗户的座视为上座。
4. 阿依努神话中，鸟神的真身是不为人类所见的，鸟神外出时，要身着甲胄才能被人类察觉，此处的身体即指偶鹳所穿的甲胄。
5. 从上座侧看上座的右侧为右座，左侧为左座，另外临近西侧门口的座为下座。座的受尊敬程度从高到低依次为上座、右座、左座、下座。
6. 这个“绅士”代指这家人，因以前富裕时他们是绅士，现在即便贫穷，也还保持着绅士气质。
7. 火神和家神都为家中之神，火神为老女神，相当于一家中女主人的地位，家神相当于一家中男主人的地位，与男女主人不同之处为当来客为神灵时，由火神和家神代表这个家招待神灵。御币为神道祭祀之物，御币棚为挂放御币的用具，御币神为女性，也为家中之神。

狐が自ら歌った謡「トワトワト」
狐吟唱的歌谣“狐的脚步声”

トワトワト

狐的脚步声

ある日に海辺へ食物を拾いに出かけました．石の中ちゃらちゃら木片の中ちゃらちゃら行きながら自分の行手を見たところが，海辺に鯨が寄り上って人間たちがみんな盛装して海幸をば喜び舞い海幸をば喜び躍り，肉を切る者運ぶ者が行き交って，重立った人たちは海幸をば謝し拝む者刀をとぐ者など浜一ぱいに黒く見えます．

有一天我去海边寻找食物。我在石头缝中扒拉扒拉，在木片堆中扒拉扒拉，边找边抬眼望了望前方，发现海边有一只大鲸鱼搁浅在岸上，在它周围人们正身着盛装欢呼雀跃着[注]。其中有切割鲸鱼肉的人，有搬送鲸鱼肉的人，来往交错，其他人也里外围了好几层不断向这个大海味行礼拜谢，另外还有磨刀的人等等。这些人覆盖了整个海岸，黑压压的一片。

私はそれを見ると大層喜びました．

我看到这个景象后十分兴奋。

「ああ早くあそこへ着いて少しでもいいから貰いたいものだ」と思って「ばんざーい！ばんざーい」と叫びながら

“啊，我得赶快过去，不论多少，能分到一些肉就好了。”我边想边高呼“万岁！万岁！”

石の中ちゃらちゃら木片の中ちゃらちゃら行って行って，近くへ行って見ましたらちっとも思いがけなかったのに鯨が上ったのだとばかり思ったのは浜辺に犬どもの便所があって大きな糞の山があります，それを鯨だと私は思ったのでありました．

于是我嚓嚓嚓地跳过石头，嚓嚓嚓地跳过木片堆，靠近了靠近了，快到跟前时咋一看，傻眼了，一点儿也没想到，本以为是鲸鱼的东西，其实是堆成山一样的狗粪，是那些臭狗们把这里当成自己的厕所了。

人間たちが海幸をば喜んで躍り海幸をば喜び舞い肉を切ったりはこんだりしているのだと私が思ったのはからすどもが糞をつっつき糞を散らし散らしその方へ飛びこの方へ飛びしているのでした．

还有，我本以为是人们在为这个海味欢呼，切割、搬送它的情景，其实是一大群乌鸦在粪堆上叨食，挑挑拣拣，把粪抛洒得到处乱飞，而且自己也这里飞飞，那里飞飞的情景。

私は腹が立ちました．

我生气了，心里骂自己道：

「眼の曇ったつまらない奴，眼の曇った悪い奴，尻尾の下の臭い奴，尻尾の下の腐った奴，お尻からやにの出る奴，お尻から汚い水の出る奴，なんという物の見方をしたのだろう．」

“两眼昏黑的贱家伙；两眼昏黑的坏家伙；尾巴下面臭哄哄的家伙；尾巴下面烂乎乎的家伙；屁股上面长眼屎的家伙；屁股里面出脏水的家伙！你到底是怎么把这些东西看错的！”

それからまた石の中ちゃらちゃら木片の中ちゃらちゃら海のそばから走りながら見たところが，私の行手に舟があってその舟の中で人間が二人互いにお悔みをのべています，

随后，我又石头缝中扒拉扒拉，木片堆中扒拉扒拉，边沿着海边跑边看向前方。前面出现了一只船，船里面有两个人正拿着长枪，枪尖相抵，反复收回又伸出，不断哀惋着的样子㊟，

「おや，何の急変があるのであゝいう事をしているのだろう，もしや舟と一しょに引繰かえった人でもあるのではないかしら，おお早くずっと近くへ行って人の話を聞きたいものだ．」

“啊呀，是不是发生了什么事两个人才这样？难道是撑船的人出事了？噢我得赶紧过去问问情况。”

と思うのでフオホホーイと高く叫んで，石の中ちゃらちゃら木片の中ちゃらちゃら飛ぶようにして行って見たら，舟だと思ったのは浜辺にある岩であって，人だと思ったのは二羽の大きな鵜であったのでした．

我边这样想，边“呼吼吼”地高叫着㊟，嚓嚓嚓地跳过石头，嚓嚓嚓地跳过木片堆，飞一般地跑过去看了后，才知道，原来我以为是船的东西，其实是海边的大岩石，我以为是人的东西，其实是两只大鹈鸟。

二羽の大きな鵜が長い首をのばしたり縮めたりしているのを悔みを言い合っている様に私は見たのでありました．

两只大鹈鸟正一会儿伸长脖子，一会儿又缩回去，两者交替进行，恰好像两个人正仗枪做着哀惋、追悼的仪式。

「眼の曇ったつまらない奴，眼の曇った悪い奴，尻尾の下の臭い奴，尻尾の下の腐った奴，お尻からやにの出る奴，お尻から汚い水の出る奴，なんという物の見方をしたのだろう．」

我又骂自己道：“两眼昏黑的贱家伙；两眼昏黑的坏家伙；尾巴下面臭哄哄的家伙；尾巴下面烂乎乎的家伙；屁股上面长眼屎的家伙；屁

股里面出脏水的家伙！你到底是怎么又把这些东西看错的！”

　　それからまた石の中ちゃらちゃら木片の中ちゃらちゃら飛ぶ様にして川をのぼって行きましたところが，ずーっと川上に女が二人浅瀬に立っていて泣き合っています．

　　之后，我仍旧石头缝中扒拉扒拉，木片堆中扒拉扒拉，顺流向上飞跑了一段距离后，看见两个女人一直站在河流上方的浅滩里，两人面对面相互拉手、抱头、附肩等等，哭泣个不停(注)。

　　私はそれを見てビックリして「おや，なんの悪い事があってなんの凶報が来てあんなに泣き合っているのだろう？ああ早く着いて人の話を聞きたいものだ．」

　　我看到后吓了一跳，“啊呀，是不是碰到什么倒霉事了，或者是有什么噩耗才哭得那么厉害？噢我得快些过去问个明白。”

　　と思って石の中ちゃらちゃら木片の中ちゃらちゃら飛ぶ様にして行って見たら，川の中程に二つの簗があって二つの簗の杭が流れにあたってグラグラ動いているのを二人の女がうつむいたり仰むいたりして泣き合っているのだと私は思ったのでありました．

　　我这样边想着，边嚓嚓嚓地跳过石头，嚓嚓嚓地跳过木片堆，像飞一样跑去看了后，才知道，原来河道中央相对竖有两个簗，簗下的木桩有松动，随着河水的流动来回摇摆，带动得簗也摇动起来，簗体交错晃动，看起来一会儿像是朝下俯首哭泣，一会儿又像是朝上感慨悲叹，两者交替，我就以为是两个苗条女人在面对面哭泣呢！

　　「眼の曇ったつまらぬ奴，眼の曇った悪い奴，尻尾の下の臭い奴，尻尾の下の腐った奴，お尻からやにの出る奴，お尻から汚い水の出る奴，なんという物の見方をしたのだろう．」

我再次骂自己道：“两眼昏黑的贱家伙；两眼昏黑的坏家伙；尾巴下面臭哄哄的家伙；尾巴下面烂乎乎的家伙；屁股上面长眼屎的家伙；屁股里面出脏水的家伙！你到底是怎么再次把这些东西看错的！”

それからまた，川をのぼって石の中ちゃらちゃら木片の中ちゃらちゃら飛ぶようにして帰って来ました．

再后来我还是继续顺流而上，石头缝中扒拉扒拉，木片堆中扒拉扒拉，飞一般地往自己家里赶。

自分の行手を見ましたところが，どうしたのだか私の家が燃えあがって大空へ立ちのぼる煙は立ちこめた雲の様です．それを見た私はビックリして気を失うほど驚きました．女の声で叫びながら飛び上りますと，むこうから誰かが大きな声でホーイと叫びながら私のそばへ飛んで来ました．見るとそれは私の妻でビックリした顔色で息せききって，

我忽地看向前方，又不好了！我家不知道为什么竟然烧起来了，烟雾直往天上冒，形成了一大片烟云。看到此情景，我着实大吃了一惊，差点晕死过去。我像女人一样高声尖叫起来[注]，不断地跳起脚来观望，正在这时不知是谁从我家方向边大声“咔咔”地叫着边飞跑到我旁边，我一看，原来是我老婆，她一脸惊恐的神色，边咳嗽喘气边说：

「旦那様，どうしたのですか？」

“老公，你这是怎么啦？”

と云うので，見ると火事の様に見えたのに私の家はもとのままたっています．火もなし，煙もありません．

她这么一说，我突然明白过来了。看起来我家像是着火了，但其实不是，家里既没有火苗，也没有烟雾。

それは，私の妻が搗物をしているとその時に風が強く吹いて，簸ている粟の糠が吹き飛ばされるさまを煙の様に私は見たのでありました．

那只是因为，我老婆在捣米时忽遇大风，大风吹起正在簸除的米糠，米糠高高扬起，在我看来就像是起了烟雾一样。

食物を探しに出かけても食物も見付からず，その上にまた，私が大声を上げたので私の妻がそれに驚いて簸ていた粟をも簸と一しょに放り飛ばしてしまったので，今夜は食べる事も出来ません

我本来是出去寻找食物的，但现在非但食物没有找到，而且还因为我高声尖叫而使我妻子大吃一惊，着急跑出来而将正在簸除米糠的米整个掉到地上了。正因如此，今天晚上，我们俩什么东西都没得吃。

私は腹立たしくて床の底へ身を投げて寝てしまいました．

我自然是又生气了，缩进家里的地底下睡觉去了。

「眼の曇ったつまらぬ奴，眼の曇った悪い奴，尻尾の下の臭い奴，尻尾の下の腐った奴，お尻からやにの出る奴，お尻から汚い水の出る奴，なんという物の見方をしたのだろう．」

“两眼昏黑的贱家伙；两眼昏黑的坏家伙；尾巴下面臭哄哄的家伙；尾巴下面烂乎乎的家伙；屁股上面长眼屎的家伙；屁股里面出脏水的家伙！你到底是怎么三番五次地把这些东西看错的！”

と狐の頭が物語りました．

——以上就是狐族头领所讲的故事。

---

1. 此处的“盛装欢呼”和下文的“里外围了好几层”“行礼拜谢”是阿依努族人向大海神致谢

的方式，因为他们认为海味是大海神亲自送至岸上馈赠给他们的礼物。

2. 这是阿依努族人对受伤或罹难者表示惋惜、哀悼的方式。

3. “呼吼吼”为音译词，是阿依努族人遇险或发现险情、遇难者时向神灵求救、呼唤族人的喊声，是男人发出的。女人发出的是一种音调更高的“咔咔”声，可以更快地传到神灵的耳朵里。不管是哪种，听到这类喊声的族人们会应声而来。下文狐的老婆即是如此。

4. 这是阿依努族女人间表达情感的方式，例如在久别重逢时，近亲去世时或有谁身处险境最终得救时。

5. 即使是男人，在紧急关头也会用女人般高亢的音调呼救，这样可以早些传到神灵的耳朵里。

狐が自ら歌った謡「ハイクンテレケ ハイコシテムトリ」
狐吟唱的歌谣“轻手轻脚 诡行恶行”

ハイクンテレケ ハイコシテムトリ

轻手轻脚 诡行恶行

国の岬，神の岬の上に私は坐して居りました．

我住在海边一个山岬上，这个山岬叫做国之岬，也叫做神之岬(注)。

ある日に外へ出て見ますと海は凪ぎてひろびろとしていて，海の上にオキキリムイとシュプンラムカとサマユンクルが海猟に三人乗りで出かけています，それを見た私は私の持ってる悪い心がむらむらと出て来ました．

有一天我到外面，海上风平浪静，无限宽广，人类始祖(注)和他的两个哥哥三人正出海打鱼，我看到这个情景，肚子里的坏水就咕嘟咕嘟地直往外冒。

この岬，国の岬，神の岬の上をずーっと上へずーっと下へ軽い足取りで腰やわらかにかけ出しました．

我轻手轻脚，腰腿敏捷地在这个山岬，即国之岬、神之岬上面上下跑动起来。

重い調子で木片をポキリポキリと折る様にパーウ，パウと叫びこの川の水源をにらみにらみ暴風の魔を呼びました．すると，それにつ

れてこの川の水源から烈しい風，つむじ風が吹き出して海にはいると直ぐにこの海は，上の海が下になり下の海が上になりました．オキキリムイたちの漁舟は沖の人の海と，陸の人の海との出会ったところ（海の中程）に，非常な急変に会って波の間をクルリと廻りました．大きな浪が山の様に舟の上へかぶさり寄ります．すると，オキキリムイ，サマユンクル，シュプンラムカは声をふるって，舟を漕ぎました．

我以粗重的，就好像嚓嚓折断木片的声音一样“啪嗷、啪嗷”地叫着，直瞪着山岬内入海的河流，将暴风之魔呼唤了出来。于是，随之从河流中产生了强烈的风，旋风吹了出来一直刮到了海上，马上就将海水掀了个底朝天。人类始祖他们的渔船在近海和远海的交会之处（海的中部）遭遇了强烈海浪，在浪空中翻了个圈。大浪像山一样打向船沿。于是，人类始祖和他的哥哥们三人奋起全力，努力撑起小船。

この小さい舟は落葉の飛ぶ様に吹き飛ばされ，今にもくつがえりそうになるけれども感心にも人間たちは力強くて，この小舟は風の中に波の上をすべります．

这只小船就像落叶被吹飞了一样眼看就要倾覆了，但人类的力量确实让我感到意外，小船只是在浪头上滑来滑去，并没有下沉的迹象。

それを見ると私の持っている悪い心がむらむらと出て来ました．軽い足取りで腰やわらかにかけまわり，重い調子で木片がポキリポキリと折れる様にパウ，パウと叫び暴風の魔を声援するのみに精を出しました．

我看到这个景象，肚子里的坏水就咕嘟咕嘟地直往外冒。我轻手轻脚，腰腿敏捷地跑动起来。以粗重的，就好像嚓嚓折断木片的声音一样“啪嗷、啪嗷”地叫着，一个劲地声援着暴风之魔。

そうしてる中に，やっと，サマユンクルが手の上から，手の下から血が流れて疲れてたおれました．そのさまを見て私はひそかに笑いを浮べました．

就这样，终于，人类始祖的二哥的手臂上下流出血来，他精疲力竭地倒下了。看到这个我私下露出了笑容。

それからまた，精を出して軽い足取りで腰やわらかにかけまわり重い調子で木片をポキリポキリと折る様に叫び暴風の魔を声援しました．

之后我又使出劲轻手轻脚，腰腿敏捷地跑动起来，以粗重的，就好像嚓嚓折断木片的声音一样叫着，继续声援着暴风之魔。

オキキリムイとシュプンラムカと二人で励まし合いながら勇ましく舟を漕いで居りましたが，と，ある時シュプンラムカは手の上から手の下から血が流れて疲れてたおれてしまいました，それを見てひそかに私は笑いました．

人类始祖和他大哥两人相互鼓着劲勇敢地撑着船，但终于他大哥的手臂上下同样也流出血来，他也精疲力竭地倒下了，看到这个，我又是私下露出了笑容。

それからまた軽い足取りで腰やわらかに飛びまわり重い調子でかたい木片をポキリポキリと折る様に叫び精を出しました．

然后我仍旧轻手轻脚，腰腿敏捷地跑动起来，以粗重的，就好像嚓嚓折断硬木片的声音一样叫着，继续使劲声援暴风之魔。

けれども，オキキリムイは疲れた様子は少しも無い．

然而，人类始祖却一点儿也没有疲倦的迹象。

一枚の薄物を体にまとい，舟を漕いでいます，そのうちに手の下でその持っていた櫂が折れてしまいました．

他身上只裹着一片薄衣撑着船，但期间他手中握着的桨折断了。

すると，疲れ死んだサマユンクルに躍りかかりその持っている櫂をもぎとってたった一人で舟を漕ぎました．

于是，他跳到疲累而死的二哥的位置上，拿过他手中的桨，只身一人地继续撑船。

私はそれを見ると，持前の悪い心がむらむらと出て来ました．

我看到这景象，肚子里的坏水又咕嘟咕嘟地往外冒了。

重い調子でかたい木片をポキリポキリと折る様に叫び軽い足取りで腰やわらかにかけまわり精を出して暴風の魔に声援しました．

我以粗重的，就好像嚓嚓折断硬木片的声音一样叫着，轻手轻脚，腰腿敏捷地跑动起来，使出劲继续声援着暴风之魔。

そうしてるうちにサマユンクルの舵も折れてしまいました．オキキリムイはシュプンラムカに躍りかかりその櫂をとって勇ましく舟を漕ぎました．

在这时原是他二哥的桨也被划断了。人类始祖又跳到了他大哥的位置上，拿过他的桨又勇敢地划下去。

けれども彼の櫂も波に折られてしまいました．

然而他大哥的桨最终也被浪头打断了。

そこで，オキキリムイは舟の中に立ちつくして，烈しい風のうち

にまさか人間の彼が私を見つけようとは思わなかったに，国の岬，神の岬の上の，私の眼の央を見つめました．

这时，人类始祖就像柱子一样矗立于船中，我也没想到作为人类的他，竟最终能在猛烈的暴风中寻找到我的踪迹，他此刻正盯着国之岬、神之岬上面的，我的眼睛的正中央。

今までやさしかった顔に怒りの色をあらわして，鞄をいじっていたが中から出したものを見ると，蓬の小弓と蓬の小矢を取り出しました．

他之前一直温和的脸上流露出了愤怒的神色，他翻了翻自己随身的包，取了什么东西出来，我一看，是一把蓬草做的小弓和一支蓬草做的小箭㊟。

それを見てひそかに私は笑いました．「人間なぞ何をしたって，恐い事があるものか，あんな蓬の小矢は何に使うものだろう．」

我看到这个私底下笑道，“到底是人类啊，不论你做什么，有很可怕的吗？你拿那个蓬草做的弓箭能干什么啊！”

と思ってこの岬国の岬，神の岬の上をずーっと上へずーっと下へ軽い足取りで腰やわらかにかけまわり，重い調子でかたい木片をポキリポキリと折る様にパウ，パウと叫び暴風の魔をほめたたえました．

我这么想着，轻手轻脚，腰腿敏捷地在这个山岬，即国之岬、神之岬上面上下跑动起来，并以粗重的，就好像嚓嚓折断硬木片的声音一样“啪嗷、啪嗷”地叫着，对暴风之魔大加称赞。

その中にオキキリムイの射放した矢が飛んで来ましたが，ちょうど私の襟首のところへ突きささりました．

就在此时，人类始祖射出的箭飞了过来，正好插在了我的脖子上。

それっきりあとどうなったか解らなくなってしまいました．

我的意识中断了，之后怎么样我就不知道了。

ふと気がついて見ると大そう好いお天気で，海の上は広々として，オキキリムイの漁舟もなにもありません．

等我醒来之后，眼前是一片晴好天空，海上广阔无边，没有人类始祖他们的渔船呀什么的。

どうした事か私の頭のさきから足のさきまで雁皮が燃え縮む様に痛みます．

不知道怎么回事，从我的头顶直到脚尖，全身的皮就像是烧起来了一样紧紧收缩，让我疼痛不止。

まさか人間の射た小さな矢がこんなに私を苦しめようとは思わなかったのに，それから手足をもがき苦しみこの岬，国の岬，神の岬の上を，ずーっと上へ，ずーっと下へ泣き叫びながらもがき苦しみ，昼でも夜でも生きたり死んだり，している中に，どうしたかわからなくなりました．

没想到人类射出的小箭也能让我如此痛苦，我痛得手舞足蹈，在这个山岬，即国之岬、神之岬上面上窜下跳，边哭边苦苦挣扎，不分昼夜，生死不如，终于我不堪忍受，后来的事情我又不知道了。

ふと気がついて見ると，大きな黒狐の耳と耳との間に私は居りました．

等我再次醒来，发现自己在一只大黑狐的两耳之间[注]。

二日ほどたった時，オキキリムイが神様の様な様子でやって来て，ニコニコ笑って言うことには，

过了大概两天，人类始祖如同神一般的姿态来到我跟前，微微笑着说道：

「まあ見ばのよい事，国の岬，神の岬の上を見守る黒狐の神様は，善い心，神の心を持っていたから死にざまの見ばのよい死方をしたのですね．」

“嘿嘿你这个死相挺气派呀！守护国之岬、神之岬的黑狐神大人，你正因为有一颗善良的心，神灵的心，所以死的时候还是蛮风光的嘛！”

言いながら私の頭を取って，自分の家へ持って行き私の上顎の骨を自分の便所のどだいとし，私の下顎をその妻の便所の礎として，私のからだはそのまま土と共に腐ってしまいました．

他边这样说边拧下我的头来，带到自己家中，用我的上颚骨给自己的茅厕做了座子，用我的下颚给妻子的茅厕加固了基础[注]，而我的身体部分就那样烂到土中了。

それから夜でも昼でも悪い臭気に苦しんでいる中に私はつまらない死方，悪い死方をしました．

从那以后我日夜都被恶臭熏着，苦不堪言，也即是说我最终得到了一个卑贱的死法，一个丑恶的死法。

ただの身分の軽い神でもなかったのですが大変な悪い心を私は持っていた為，なんにもならない，悪い死方を私はしたのですから，これからの狐たちよ，決して悪い心を持ちなさるな．

我并不是一个身份卑微的神，但我有一颗非常恶毒的心，所以到最后我变得什么都不是，遭遇到丑恶的死法，这也是给以后的狐们一个警告，决不能抱有邪恶之心啊！

と狐の神様が物語りました．

——以上就是狐神所讲的故事。

---

1. 这个故事的讲述者是黑狐神，黑狐是狐族中受尊敬的狐，海角处的山岬为黑狐神的领地。
2. 人类始祖是后来被称为“人类始祖”的一个人，他是阿依努神话中的文化创始神。另外，口传文学中神或人的名字的构成、由来常常比较复杂，难于翻译，因此译者将下文出现的两个人人名以和人类始祖的关系称呼代替。
3. 蓬草为阿依努族的圣草，被蓬草箭射中的话，即使是恶魔也永无出头之日。
4. 可理解为黑狐神之身已死，黑狐神之灵萎缩于两耳之间的头部。这与鸟神真身位于其甲胄的两耳之间大概为同一考虑方法。
5. 阿依努族即便是家人起初厕所也是男女分开的。

兎が自ら歌った謡「サンパヤ テレケ」
兔子吟唱的歌谣“血红色兔子”

サンパヤ テレケ

血红色兔子

二つの谷，三つの谷を飛び越え飛び越え遊びながら兄様のあとをしたって山へ行きました.

跳过两个山谷，跳过三个山谷，我跟在哥哥后面边玩耍边朝山的方向而去。

毎日毎日兄様のあとへ行って見ると人間が弩を仕掛けて置いてあるとその弩を兄様がこわしてしまう，それを私は笑うのを常としていたのでこの日また行って見たら，ちっとも思いがけない兄様が弩にかかって泣き叫んでいる.

每天跟在哥哥的后面，我发现他一看到人类设置的石弩，就会把它们破坏掉，看到这些我就会不觉发笑。这事儿我们已经习以为常了，但是这天我却一点儿也没想到，在去往山里的路上哥哥竟然中了人类的石弩，痛苦地哭喊。

私はビックリして，兄様のそばへ飛んで行ったら兄様は泣きながら云うことには，「これ弟よ，今これからお前は走って行って私たちの村の後へ着いたら兄様が弩にかかったよ——，フオホホーイと大声でよぶのだよ.」

我吓了一跳，赶紧跑到哥哥身边，哥哥边哭边说道：“弟弟啊，现

在你赶快跑到我们村后，大声喊‘呼吼吼——，我哥哥中了石弩！’要赶快！”

私はきいてハイ，ハイ，と返辞をして，それから二つの谷，三つの谷を飛び越え飛び越え遊びながら来て私たちの村の村後へ着きました．

我一听，“好！好！”地连声回答后，跳过两个山谷，跳过三个山谷，边玩耍边来到我们村后。

そこではじめて兄様が私を使いによこしたことを思い出しました，私は大声で叫び声を挙げようとしたが，兄様が何を言って私を使によこしてあったのかすっかり私は忘れていました．そこに立ちつくして思い出そうとしたがどうしてもだめだ．

我那时才忽地想起哥哥要我做的事情，我想大声呼喊，但是完全忘记了该喊些什么，只是呆在原地努力回想，但我就是想不起来。

それからまた二つの谷を越え三つの谷を越え，後へ逆飛び逆躍びしながら兄様のいる所へ来て，見ると誰もいない．

于是我又跳过两个山谷，跳过三个山谷，原路跳回，一直跳到哥哥原来待的地方，我发现哥哥已经不在那里了。

兄様の血だけがそこらに附いていた．

周围只有处处血迹。

（ここまでで話は外へ飛ぶ）

（故事至此转为哥哥的视角叙述）

ケトカ ウォイウォイ ケトカ，ケトカ ウォイ ケトカ

“坎儿途卡 噢噢 坎儿途卡，坎儿途卡 噢 坎儿途卡”

每日每日私は山へ行って人間が弩を仕掛けてあるのをこわしてそれを面白がるのが常であった所が，ある日また前の所に弩が仕掛けてあると，その側に小さい蓬の弩が仕掛けてある，私はそれを見ると

我每天都到山里去，发现人类设置的石弩后就把它们弄坏，并以此为乐，我对这个已经习以为常，但是有一天，我发现一处先前我破坏过的地方又被重新设置上了石弩，并且它的旁边还多了一个蓬草做的东西，我看到之后心想：

「こんな物，何にする物だろう．」

“这个是用来做什么的啊？”

と思っておかしいので，ちょとそれに触って見た直ぐに逃げようとしたら，思いがけなく，その弩にいやという程はまってしまった．

我觉得奇怪，便试着稍微碰了它一下，本想马上就逃开的，但没想到我竟被它牢牢地缠住了，真是倒霉！

逃げようともがけばもがくほど強くしめられるので，どうする事も出来ないので，私は泣いていると，私の側へ何だか飛んで来たので，見るとそれは私の弟であった．私はよろこんで，私たちの一族のものにこの事を知らせる様に言いつけてやったが，それからいくら待っても何の音もない．

我挣扎着想摆脱它，但是越挣扎就被缠得越牢，什么办法也没有。我哭了起来，正哭时，旁边有谁跳了过来，我一看，是我的弟弟。我高兴起来，拜托它去寻求我们同族的帮助，但是之后无论我怎么等待，都没有得到结果。

私は泣いていると，私の側へ人の影があらわれた．見ると，神の様な美しい人間の若者ニコニコして，私を取って，どこかへ持って行った．見ると大きな家の中が神の宝物で一ぱいになっている．

我继续哭着，忽然我的旁边出现了一个人，我一看，是一个像神灵一般英俊的年轻人，他微笑着，把我从蓬草中取出，并带到了一个地方，我一看，这是一个大大的屋子，里面放满了神的宝物。

彼の若者は火を焚いて，大きな鍋を火にかけて，掛けてある刀を引き抜いて，私のからだを皮のままブツブツに切って鍋一ぱいに入れ，それから鍋の下へ頭を突き入れ突き入れ火を焚きつけ出した．どうかして逃げたいので私は人間の若者の隙をねらうけれども，人間の若者はちっとも私から眼をはなさない．

这个年轻人生了火，架了口大锅，拔出挂着的刀将我连皮带肉切成块投满整个锅，接着又几次把自己的头伸入锅的下面把火吹得更旺。我想瞅准个机会逃跑，就一直寻找他疏忽的时候，但这个年轻人注意着我，一点儿也不放松。

「鍋が煮え立って私が煮えてしまったら，なんにもならないつまらない死方，悪い死方をしなければならない．」と思って人間の若者の油断をねらってねらって，やっとの事一片の肉に自分を化らして立ち上る湯気に身を交えて鍋の椽に上り，左の座へ飛び下りると直ぐに戸外へ飛び出した，泣きながら飛んで息を切らして逃げて来て私の家へ着いて，ほんとうにあぶないことであったと胸撫で下した．

“锅里的水被煮开，接下来我也会被煮得皮开肉烂，不得不无趣地死去，这样死是多么不值得啊！”我这么想着，不断地寻找年轻人的疏忽，终于，趁有一瞬间他的视线离开我时，我马上变成一片肉，混入升腾的水汽中，跳上锅的边缘，接下来向左侧跳下后就马上逃出屋外，边哭泣边一口气地逃回自己家中，抚平狂跳的胸口后自我安慰道：“真的

是太危险了！”

後ふりかえって見ると，ただの人間，ただの若者とばかり思っていたのはオキキリムイ，神の様な強い方なのでありました．

后来当我回顾这个事情时才知道，当时我以为只是一个普通人的那个年轻人，其实是人类始祖，他是一个像神一样强大的人。

ただの人間が仕掛けた弩だと思って毎日毎日悪戯をしたのを，オキキリムイは大そう怒って蓬の小弩で私を殺そうとしたのだが，私もただの身分の軽い神でもないのに，つまらない死方，悪い死方をしたら，私の親類のもの共も，困り惑うであろう事を不憫に思って下されておかげで，私が逃げても追いかけなかったのでありました．

我以前小看那些石弩，认为它们都是普通人设置的，才每每恶作剧地将它毁坏，人类始祖因此大为恼怒，于是设置了蓬草做的小弩，本想以此杀死我，但因为我并非一个身份卑微的神，若是就那样以一个差劲的死法不值得地死了，我的亲族们定会困惑不解的。人类始祖也能料想到这一点，他觉得如果我真的死了的话我们全族同胞一定会很可怜的，因此才在我逃离那口锅时并没有来追杀我。

それから，前には，兎は鹿ほども体の大きなものであったが，この様な悪戯を私がしたためにオキキリムイの一つの肉片ほど小さくなったのです．

还有，在那之前，兔子的身体也是像鹿一样大的，就因为我做了那样的恶作剧，才变得像人类始祖的食物的一片肉那么小。

これからの私たちの仲間はみんなこの位のからだになるのであろう．

从那之后我的同族兔子们的身体也都会是一样小了吧。

これからの兎たちよ，決していたずらをしなさるな.

所以，兔子们啊，以后，决不能做恶作剧的事情。

と，兎の首領が子供等を教えて死にました.

——兔族的首领这样教导了孩子们之后才死去。

谷地の魔神が自ら歌った謡「ハリッ クンナ」
山谷魔神吟唱的歌谣“哈利次 库恩那”

ハリッ クンナ

哈利次 库恩那

ある日に好いお天気なので，私の谷地に眼と口とだけ出して見ていたところが，ずっと浜の方から人の話し声がきこえて来た．

有一天，天气晴好，我把嘴巴和眼睛伸出谷口，换换空气，看看风景，期间我听到从海边一直有人的说话声传来。

見ると，二人の若者が連れだって来た．

循声望去，原来是两个年轻人正结伴走来。

先に来た者は勇者らしく勇者の品をそなえて，神の様に美しいが，後から来た者を見ると，様子の悪い顔色の悪い男で，何か話し合いながらやって来たが，私の谷地の側を通りちょうど私の前へ来ると，あとから来た顔色の悪い男が立ち止り立ち止り，自分の鼻をおおい

走在前面的人像是一个勇士，他具有勇士的气质，像神灵一样俊美，走在后面的男的相貌丑陋，面目青黑，他们边说话边走过来，走过山谷这侧时来到我旁边，后面那个丑陋的人就几次停下脚步，捂着自己的鼻子说：

「おお臭い，いやな谷地，悪い谷地の前を通ったらまあ汚い，何

だろうこんなに臭いのは．」と言った．

“噢噢好臭！真倒霉，这个破山谷！从这个臭谷子走过自己都变臭了，是什么东西啊这么臭！”

私はただ聞いたばかりだけれど，自分の居るか居ないかもわからぬほど腹が立った．泥の中から飛び出した．私が飛び上ると地が裂け地が破れる．牙を鳴らしながら，彼等を強く追っかけたところが，先に来た者はそれと見るや魚がクルリとあとへかえる様に引っかえして，顔色の悪い男のわきの下をくぐりずーっと逃げてしまった．

我只是听了这话就立马怒不可遏，不顾一切地从泥里跳出来，我愤怒得出来时连地面都撑破了，我咬牙切齿地朝他俩追去，走在前面的那人一看我追来了，就像鱼一样哧溜地抽身返回，从丑陋男的胳肢窝下面钻过，折向来时的方向径直逃去。

青い男を二間三間追っかけると直ぐ追いついて，頭から呑んでしまった．

我就追着那个面目青黑的丑男，追了差不多十几尺的距离，追上了，然后我就将他从头到脚整个吞到了肚里。

そこで今度は彼の男をありったけの速力で追っかけて来て，人間の村，大きな村の後へ着いた．

之后我又以我能跑的最快的速度追着前面逃走的那人，直到来到人类居住的村子，一个很大的村子的后面。

見るとむこうから火の老女，神の老女があかい着物，六枚の着物に帯をしめ，六枚の着物を羽織って，あかい杖をついて私の側へ飛んで来た．

对面望去只见一个老女神，掌管火的女神向我飞驰而来，她身穿红色衣服，里外披有六层，束着带子，拄着红色神杖，朝我说道：

「これはこれは，お前は何しにこのアイヌ村へ来るのか，さあお帰り，さあお帰り．」

“这不是谷地魔神嘛，你来到这个阿依努村干什么呢？赶快回去，赶快回去！”

言いながら，あかい杖，かねの杖をふり上げて私をたたくと，杖から焔が私の上へ雨の様に降って来る．

她边说边抡起红色金杖打向我，于是像雨一般的团团火焰从杖的尖端飞到我头顶。

けれども私はちっとも構わず，牙打ち鳴らしながら彼の男を追っかけると，彼の男は村の中をよくまわる環の様に走って行く．そのあとを飛んで行くと，大地が裂け大地が破れる．村中は大さわぎ，妻の手を引く者，子の手を引く者，泣き叫び逃げゆくもの煮えくりかえるようなありさま，けれども私は少しも構わず，土吹雪をたてる，火の老女神は私の側を走って来ると大へんな焔が，私の上に飛び交う．

但是我对此一点都不在乎，我将牙咬得咯吱咯吱响，继续追着那个男人，那个男人绕着村子兜着圈儿跑，我紧随在他后面追着，我所经过之处大地都裂开了。村里人们乱成一团，有拉住妻子的手的，有拉住孩子的手的，也有哭喊着逃走的，简直就是一锅粥，但我一点也不在乎，脚后跟升起土烟一个劲儿地跑，即便那个掌管火的老女神一直追着我，将她那团团火球一个个投到我头顶。

その中に，彼の男は一軒の家に飛び込むと直ぐにまた飛び出した．見ると，蓬の小弓に蓬の小矢をつがえて，むこうからニコニコし

て，私をねらっている．

在此期间，那个男人跳到一个屋子里后，不多时又跳了出来。我一看，他正拿着蓬草做的小箭搭在蓬草做的小弓上面，呵呵呵呵地笑着，从对面向这边瞄准着我。

それを見て私は可笑しく思った．「あんな小さな蓬の矢，何で人が苦しむものか．」と思いながら私は牙を打ち鳴らして，頭から呑もうとしたら，その時彼の男は私の首ッ玉をしたたかに射た．それっきりどうしたかわからなくなってしまった．

看到这个我觉得很可笑，心想：“那样的小不点儿的草箭，难道不是给我挠痒痒的吗？”我把牙咬得咯吱咯吱响，想奔向他将他从头到脚吞掉，但就在这时，那个男人的箭狠狠地射中了我的头颅，随后的事情，我就不知道了。

ふと気がついて見たところが，大きな竜の耳と耳の間に私はいた．村の人々が集って，彼の私が追っかけた若者が大声で指図をして，私の屍体をみんな細かに刻み一つ所へ運んで焼いて，その灰を山の岩の岩の後へ捨ててしまった．

我忽地醒过来后，发觉自己在一条大龙的两耳之间。村里的人们正集合在一起，那个我先前追赶的男人正大声地指挥着他们什么，他们将我的尸体切成了碎片，集中到一个地方烧成灰，然后将这些灰丢弃在山里一块块的大岩石后面。

今になってはじめて見ると，それは，ただの人間ただの若者だと思ったのはオキキリムイ，神の勇者であった．

到现在回想起这件事，我才第一次知道，我原以为只是普通人的那个年轻人，就是人类始祖，他是一个如同神一般强大的勇士。

恐しい悪い神，悪魔神，私はそれであって人間の村の近くにいるので，オキキリムイは村の為を思って，私をおこらせ自分を追いかけさせて，蓬の矢で私を殺したのであった．それから，先に私が呑んでしまった青い男は，人間だと思ったのだったがそれは，オキキリムイがその放糞を人に作り，それを連れて来たのであった．

我是可怕的恶魔之神，又住在人类村子的附近，因此人类始祖为了村人考虑，故意惹怒我，让我追赶他，然后他就用蓬草之箭杀死了我。至于我之前吞下的那个面目青黑的人，其实他不是人，而是人类始祖用自己拉的粪便做成的像人一样的东西，也正是人类始祖带着它来到我住所旁边激怒我的。

私は魔神であったから，今はもう地獄のおそろしい悪い国にやられたのだから，これからは，人間の国には，なんの危険もない，邪魔ものもないであろう．

因为我是魔神，所以死后被打入了地狱中令人恐惧的恶魔之国，从今以后，在人类的国度里，不会再有危险的，作恶的东西存在了吧。

私は恐しい魔神であったけれども，一人の人間の計略にまけて，今はもうつまらない死方，悪い死方をするのです．

我虽然是个可怕的魔神，却输在了一个人类的计谋之下，最终，死得既糟糕，又无聊。

と谷地の魔神が物語りました．

——以上就是山谷魔神所讲的故事。

小狼の神が自ら歌った謡「ホテナオ」
小狼之神吟唱的歌谣“嚎太那奥”

ホテナオ

嚎太那奥

ある日に退屈なので浜辺へ出て，遊んでいたら一人の小男が来ていたから，川下へ下ると私も川下へ下り，川上へ来ると私も川上へ行き道をさえぎった.

有一天我感到无聊，就到海边玩，看到一个小男孩在海边走的时候，我有了主意，于是当他往下流走时我也往下流走，当他往上流走时我也往上流走，故意挡住他的去路。

すると川下へ六回川上へ六回になった時，小男は持前の癇癪を顔に表して言うことには，

就这样往下流和上流各走了六次时，小男孩终于忍不住暴跳起来，说道：

「ピイピイ，この小僧め悪い小僧め，そんな事をするならこの岬の，昔の名と今の名を言い解いて見ろ」

“哔哂，你这小子，你这个坏小子！你以为你是老大吗？老挡住我的路！有本事的话你给我说说这个山岬过去的名字和现在的名字，我看对不对！”

私は聞いて笑いながらいうことには，「誰がこの岬の昔の名と今

の名を知らないものか！昔は，尊いえらい神様や人間が居ったからこの岬を神の岬と言ったものだが，今は時代が衰えたから御幣の岬とよんでいるのさ！」

我听了边笑边说道：“谁不知道这个山岬过去和现在的名字啊！过去，这里住着的是受人尊敬的、伟大的神还有像神一样厉害的人，所以叫做神之岬，而如今时代衰退了，只叫做御币岬。”

云うと，小男の云うことには，「ピイトン，ピイトン，この小僧め，本当にお前はそういうならこの川の前の名と今の名を云って見ろ．」

我说完后，小男孩不服气地说道：“哔嗵，哔嗵，你这个小子，你真的啥都知道的话，那就说说这条河过去和现在的名字给我听！”

聞くと，私の云うことには，「誰がこの川の前の名今の名を知らないものか！昔，えらかった時代にはこの川を流れの早い川と云っていたのだが，今は世が衰えているので流れの遅い川と云っているのさ．」

我于是又说：“谁不知道这条河过去和现在的名字啊！过去有伟大的神的时候这条河流得很快，叫做快流河，而如今时代衰退了，叫做慢流河。”

云うと小男の云うことには，「ピイトントン，ピイトントン，本当にお前そんな事を云うならお互の素性の解き合いをやろう．」

我说完后小男孩又叫道：“哔嗵嗵，哔嗵嗵，你果真什么都知道？那你给我说说我们俩，本质上都是什么东西！”

聞いて私の云うことには，「誰がお前の素性を知らないものか！大昔，オキキリムイが山へ行って狩猟小舎を建てた時，榛の木の炉縁

を作ったらその炉縁が火に当ってからからに乾いてしまった.

我听了后再次说道:“谁不知道你的原形啊！很早很早，人类始祖上山打猎时，在山上建了座小屋，拿榛子木在屋里做了暖炉的炉缘，后来那炉缘因经常受火烧烤变干变硬了。

オキキリムイが片方を踏むと片一方が上る，それをオキキリムイが怒って，その炉縁を川へ持って下り捨ててしまったのだ.

人类始祖想把它弄直，就用脚踩它，谁知踩直了这边，那边就翘起，踩直了那边，这边就翘起，人类始祖恼怒了，就把它整个剥下来扔进了河里，任凭它被流水冲到河的下游。

それからその炉縁は流れに沿うて流れていって海へ出で，彼方の海波，此方の海波に打ちつけられる様を神様たちが御覧になって，敬うべきえらいオキキリムイの手作りの物がその様に何の役にもたたず，迷い流れて海水と共に腐ってしまうのは勿体ない事だから，神様たちからその炉縁は魚にされて，炉縁魚と名づけられたのだ.

然后那炉缘就顺着河流流进了海里，遭到周围海浪的反复拍打，神灵们看到这个景象，觉得它本来是受人尊敬的伟大的人类始祖亲手做出的东西，而现在却因失去作用而被遗弃，迷失于茫茫大海之中，被海水侵蚀，眼看即将消亡殆尽，这是一个多么不值得，多么浪费生命的事情啊！于是神灵们就把它变成了一条鱼，并起名为炉缘鱼。

ところがその炉縁魚は，自分の素性がわからないので，人にばけてうろついている.その炉縁魚がお前なのさ.」

然而这炉缘鱼，如今却不知道自己的真面目了，竟化成人形到处游荡。而你就是这炉缘鱼！」

云うと，小男は顔色を変え変え聞いていたが「ピイトントン，ピ

イトントン！お前は，小さい，狼の子なのさ．」

听这番话的时候，小男孩的脸色变绿又变紫，终于忍不住叫了出来：“哔嗵嗵，哔嗵嗵！那…那你就是那个…小…狼的孩子没错了！”

云い終ると，直ぐに海へパチャンと飛び込んだ．

话一说完他就扑通一声跳进海里去了。

あと見送ると，一つの赤い魚が尾鰭を動かしてずーっと沖へ行ってしまった．

我追着他的影子看去，只见一条红色的鱼扇动着尾鳍，一直朝着海的深处游去。

と，幼い狼の神様が物語りました．

——以上就是小狼之神所讲的故事。

梟の神が自ら歌った謡「コンクワ」
鸺鹠神吟唱的歌谣“考恩库瓦”

コンクワ

考恩库瓦

昔私の物言う時は桜皮を巻いた弓の弓把の央を鳴り渡らす如くに言ったのであったが，今は衰え年老いてしまった事よ．けれども誰か雄弁で使者としての自信を持ってる者があったら，天国へ五ツ半の談判を言いつけてやりたいものだ．」

过去我巧舌如簧，说话有分量之时，只是把着一把树皮卷制而成的弓，它都会嗖嗖作响，而如今年老气衰，我这条舌头也卷不动了。但是如果有一个拥有自信而且能言善辩之人，我则想派他去天国进行五个半的谈判。”

とたがつきのシントコの蓋の上をたたきながら私は言った，ところが入口で誰かが「私をおいて誰が使者として雄弁で自信のあるものがあるでしょう．」というので，見ると鴉の若者であった．私は家に入れて，それから，たがつきのシントコの蓋の上をたたきながら鴉の若者を使者にたてる為その談判を云いきかせて三日たって，三つ目の談判を話しながら見ると，鴉の若者は炉縁の後で居眠りをしている，それを見ると癪にさわったので，鴉の若者を羽ぐるみ引っぱたいて殺してしまった．

我敲着带箍行器的盖子说道，然而这时家门口有谁叫道：“除了我还有谁能做使者，自信且具有雄辩之才呢？”我一看，原来是年轻的乌

鸦，于是我让他进入家中，接下来，我敲着带箍行器的盖子给他讲让他作为使者去谈判的事情，一直经过了三天，在第三天的讲话中，我看到这年轻的乌鸦在炉缘后面打瞌睡，我于是气不打一处来，用我强劲的翅膀直接把他拍死了。

それから又たがつきのシントコの蓋の上をたたきながら，「誰か使者として自信のある者があれば天国へ五ツ半の談判を言いつけてやりたい．」と言うと，誰かがまた入口へ「誰が私をおいて，雄弁で天国へ使者に立つほどの者がありましょう．」と言うので，見ると山のかけすであった．

随后我又敲着带箍行器的盖子说道：“若有谁有自信成为使者，我想让他去天国进行五个半的谈判。”说完，谁又在家门口叫道：“除了我，还有谁能有作为使者去天国的雄辩之才呢？”我一看，原来是山里的松鸦。

家へ入れて，それからまたたがつきのシントコの蓋の上をたたきながら五ツ半の談判を話して，四日たって，四つの用向を言っているうちに山のかけすは炉縁の後で居眠りをしている．私は腹が立って，山のかけすを羽ぐるみひっぱたいて殺してしまった．

我让他进入家中，然后还是敲着带箍行器的盖子跟他讲五个半的谈判的事情，这样经过了四天，在我跟他讲四个要事的时候，我发现这山里的松鸦也在炉缘后面打瞌睡。我于是又生气了，用我强劲的翅膀把他也拍死了。

それからまたたがつきのシントコの蓋の上をたたきながら，「誰か雄弁で使者として自信のある者があれば，天国へ五ツ半の談判を持たせてやりたい．」と言うと，誰かが慎深い態度ではいって来たので，見ると川ガラスの若者，美しい様子で左の座に坐った．それで私はたがつきのシントコの蓋の上をたたきながら五ツ半の用件を夜でも

昼でも言い続けた．見れば川ガラスの若者，何も疲れた様子もなく聞いていて，昼と夜を数えて六日目に私が言い終ると直ぐに天窗から出て天国へ行ってしまった．

随后我又敲着带箍行器的盖子说道：“若有谁有雄辩之才，且有自信成为使者，我想让他去天国进行五个半的谈判。”说完，有谁抱着小心翼翼的态度进入我的家中，我一看，原来是年轻的河鸦，他容貌俊美，坐到了左侧的位子上。然后我就敲着带箍行器的盖子不分昼夜地跟他讲五个半谈判的事情。却说这个年轻的河鸦，一点儿也没有疲倦的迹象，就这样一直听着我讲，过了好几个白天和黑夜，到第六天我把事情说完的时候，他便马上从天窗飞出飞向天国去了。

その談判の大むねは，人間の世界に饑饉があって人間たちは今にも餓死しようとしている．どういう訳かと見ると天国に鹿を司る神様と魚を司る神様とが相談をして，鹿も出さず魚も出さぬことにしたからであったので，神様たちからどんなに言われても知らぬ顔をしているので，人間たちは猟に山へ行っても鹿も無い，魚漁に川へ行っても魚も無い．私はそれを見て腹が立ったので，鹿の神，魚の神へ使者をたてたのである．

那个谈判的大意为，人类世界发生饥荒了，人们都快要饿死了，但不知道为什么，天国里负责人类世界中鹿和鱼的两个神灵像是共通一致地不向人类提供鹿和鱼，人们不管神灵们在说什么，也只是一副不懂的样子照样去打猎和捕鱼，但是到了山中，一只鹿也见不着，到了河里，一条鱼也找不到。我看到这些情景十分生气，于是才派使者去见天国中负责鹿和鱼的神灵。

それから幾日もたって空の方に微かな音がきこえていたが，誰かがはいって来た．見ると川ガラスの若者，今は前よりも美しさを増し，勇ましい気品をそなえて返し談判を述べはじめた．

从那之后没过几天，从天空方向传来了微弱的声音，应该是谁回来了。我一看，正是年轻的河鸦，他比以前更加俊美，而且散发着勇者的气质，他回到家中，开始向我报告谈判的结果。

天国の鹿の神や魚の神が今日まで鹿を出さず魚を出さなかった理由は，人間たちが鹿を捕る時に木で鹿の頭をたたき，皮を剥ぐと鹿の頭をそのまま山の木原に捨ておき，魚をとると腐れ木で魚の頭をたたいて殺すので，鹿どもは，裸で泣きながら鹿の神の許へ帰り，魚どもは腐れ木をくわえて魚の神の許へ帰る．鹿の神，魚の神は怒って相談をし，鹿を出さず魚を出さなかったのであった．が，こののち人間たちが鹿でも魚でもていねいに取扱うという事なら鹿も出す魚も出すであろう，と鹿の神と魚の神が言ったという事を詳しく申し立てた．

天国中负责鹿和鱼的神灵到现在为止一直不向人类提供鹿和鱼的理由是，人类在捕获鹿时用木头敲打它的头，且剥了鹿皮之后将鹿头就那样扔进山中的林子，捕到鱼时则用烂木头敲打鱼头将它杀死，可怜的鹿们，赤裸着哭泣着回到鹿神的身边，可怜的鱼们，嘴里啃着烂木头回到鱼神那里。鹿神和鱼神都很恼怒，他们商定好，两方都不再向人类提供鹿或鱼，但是若以后人们能够温和地对待他们的话，两神灵将还会提供鹿或鱼给人类的。年轻的河鸦给我详细转述了鹿神和鱼神所说的话。

私はそれを聞いてから川ガラスの若者に讃辞を呈して，見ると本当に人間たちは鹿や魚を粗末に取扱ったのであった．

我听了这些大为赞赏年轻的河鸦，我确证了一番，人类确实对待鹿和鱼甚是粗暴。

それから，以後は，決してそんな事をしない様に人間たちに，眠りの時，夢の中に教えてやったら，人間たちも悪かったという事に気が付き，それからは幣の様に魚をとる道具を美しく作り，それで魚をとる．鹿をとったときは，鹿の頭もきれいに飾って祭る，それで魚た

ちは，よろこんで美しい御幣をくわえて魚の神のもとに行き，鹿たちはよろこんで新しく月代をして鹿の神のもとに立ち帰る．それを鹿の神や魚の神はよろこんで沢山魚を出し，沢山鹿を出した．

从那以后，为了不让人类再继续这样对待鹿和鱼，我趁人们进入梦乡时，在梦中教育了他们，人们也终于认识到了自己的错误，从那以后人们把捕鱼的工具做得像御币一样美观，拿它来捕鱼。捕到鹿的时候，将鹿头华丽地装饰后并且祭祀，因此鱼们最终高兴地嘴衔美丽的御币回到鱼神的身边，鹿们也高兴地获得新生而回到鹿神的住处。鹿神和鱼神因此大为高兴，向人们提供了数量更多的鹿和鱼。

人間たちは，今はもうなんの困る事もひもじい事もなく暮している，私はそれを見て安心をした．

人们现在已是没有任何困扰，没有任何饥馑地生活着了。我看到这个情景就安心了。

私は，もう年老い，衰え弱ったので，天国へ行こうと思っていたのだけれども，私が守護している人間の国に饑饉があって人間たちが餓死しようとしているのに構わずに行く事が出来ないので，これまで居たのだけれども，今はもうなんの気がかりも無いから，最も強い者若い勇者を私のあとにおき人間の世を守護させて，今天国へ行く所なのだ．

我已经年老气衰，想要到天国去安享晚年，但我守护的人类之国，若是有饥馑，人们都要饿死的话，我哪能不管不问地只顾自己离去呢？我一直守护着人类直到现在，现在我已经用不着忧虑了，我把我的位置留给这个能力强大的年轻的河鸦，让他守护人类之国，我这就要飞往天国而去了。

と，国の守護神なる翁神（梟）が物語って天国へ行きました．

——人类之国的守护神——翁神（鸺鹠神）讲完这个故事就去往天国了。

海の神が自ら歌った謡「アトイカ トマトマキ クントテアシ フム フム！」

海神吟唱的歌谣“阿托依咔 托马图阿奇 库恩图太阿兮 哼 哼！”

アトイカ トマトマキ クントテアシ フムフム

阿托依咔 托马图阿奇 库恩图太阿兮 哼哼

長い兄様，六人の兄様，長い姉様，六人の姉様，短い兄様，六人の兄様，短い姉様，六人の姉様が私を育てて居たが，私は宝物の積んである傍に高床をしつらえ，その高床の上にすわって鞘刻み鞘彫り，それのみを事として暮していた．

我有个子高的哥哥六人，个子高的姐姐六人，个子矮的哥哥六人，个子矮的姐姐六人，他们共同抚养我，我则是在家里堆满宝物的地方旁边筑一高台，坐在高台上，整天的工作只是雕刻剑鞘，刻了又刻。

毎日，朝になると兄様たちは矢筒を背負って姉様たちと一しょに出て行って，暮方になると疲れた顔色で何も持たずに帰って来て，姉様たちは疲れているのに食事拵えをし，私にお膳を出して自分たちも食事をして，食事のあとが片附くと，それから兄様たちは矢を作るのに忙しく手を動かす．矢筒が一ぱいになると，みんな疲れているものだから，寝ると高鼾を響かせてねむってしまう．

每天早上哥哥们背着箭筒和姐姐们一块儿出去，到了晚上带着疲惫的神色两手空空地回来，姐姐们已经很累了，但还是会做好饭，把饭端到我面前，然后自己吃饭，吃完后收拾妥当，然后再和哥哥们一起做

箭，手里忙个不停。待大家做好箭将箭筒装满，都已经很累了，他们去躺下后就会马上高声打起呼噜睡着。

その次の日になるとまだ暗い中にみんな起きて，姉様たちが食事拵えをして私に膳を出し，みんな食事が済むと，また矢筒を背負って行ってしまう．また夕方になると疲れた顔色で何も持たずに帰って来て，姉様たちは食事拵え，兄様たちは矢を作って，何時でも同じ事をしていた．

第二天天还没亮大家就起来，姐姐们做好饭把饭给我端来，大家也都吃好饭后，接着又背上箭筒出门。到了晚上又是带着疲惫的神色两手空空地回来，姐姐们做饭，哥哥们做箭，不论哪天均是如此。

ある日にまた兄様たち姉様たちは矢筒を背負って出て行ってしまった．宝物の彫刻を私はしていたがやがて高床の上に起き上り，金の小弓に金の小矢を持って外へ出て，見ると海はひろびろと凪ぎて，海の東へ海の西へ鯨たちがパチャパチャと遊んで居る．すると海の東に長い姉様，六人の姉様が手をつらねて輪をつくると，短い姉様，六人の姉様が輪の中へ鯨を追い込む，長い兄様，六人の兄様，短い兄様，六人の兄様が輪の中へ鯨をねらい射つと，その鯨の下を矢が通り上を矢が通る．毎日毎日彼等はこんな事をしていたのであった．見ると海の中央に大きな鯨が親子の鯨が上へ下へパチャパチャと遊んで居るのが見えたので，遠い所から金の小弓に金の小矢を番えてねらい射ったところ，一本の矢で一度に親子の鯨を射貫いてしまった．

有一天哥哥们和姐姐们又背着箭筒出去了。我继续雕刻宝物，终于我从高台上起身，拿了金做的小弓和小箭出了门去，外面海上广阔，风平浪静，鲸鱼们叭嚓叭嚓地在海的东面和西面之间游来游去，我看到海面东侧高个儿的六个姐姐手拉手围成了一个圆圈，矮个儿的六个姐姐正将鲸鱼往这个圈里赶，高个儿的六个哥哥和矮个儿的六个哥哥瞄准圈里的鲸鱼放箭，箭在鲸鱼身体上下穿梭。每天哥哥们姐姐们都在做同样的

事。我看到海面中央有一大一小两只鲸鱼叭嚓叭嚓地上下翻滚嬉戏，于是将金做的小箭搭上金做的小弓远远地瞄准射去，这根箭一次就穿进了两只鲸的身体。

そこで一つの鯨のまんなかを斬ってその半分を姉様たちの輪の中へほうりこんだ．それから鯨一ツ半の鯨を尾の下にいれて人間の国にむかって行き，オタシュツ村に着いて一ツ半の鯨を村の浜へ押し上げてやった．

然后我将其中一只鲸从正中间断开，将其中一半投进了姐姐们围成的圈中，然后将另一只半鲸放入尾巴下面去往人类之国，到达奥塔修茨村，将这一只半鲸推到了这个村边的海岸上。

それから海の上にゆっくりと游いで帰って来たところが，誰かが息を切らしてその側をはしるものがあるので，見ると，海のごめであった．

然后我从海上慢慢地游回来，路上，不知是谁上气不接下气地跑了过来，我一看，原来是海里的沙丁鱼。

息をきらしながら云うことには，「トミンカリクル　カムイカリクル　イソヤンケクル，勇マシイ神様，大神様，あなたはなんの為に，卑しい人間共，悪い人間共に大きな海幸をおやりになったのです．卑しい人間共，悪い人間共は，斧もて鎌をもて大きな海幸をブツブツ切ったり突っついたり削り取っています，勇ましい神様，大神様さあ早く大海幸をお取り返しなさいませ．あんなに沢山，海幸をおやりになっても卑しい人間たち悪い人間たちは有難いとも思わずこんな事をします．」

他喘着气说道：“托明咔里库—咔穆依咔里库—伊索洋凯库，勇敢的神啊，大神大人，您是为何将如此大的海味给了那些卑微丑恶的人类

啊？那些卑微丑恶的人们用斧头和镰刀去砍，去削，去刺这个大海味，取它的肉，他们的做法粗暴无礼，勇敢的神，大神大人啊，请赶快将这大海味取回。您就是给予他们再多的海味，他们这些卑微丑恶的人也不会感恩，还是会那样对待它们的。”

と云うので，私は笑って云うことには,「私は人間たちに呉れてやったものだから今はもう自分の物だから，人間たちが自分の持物を鎌でつつこうが斧で削ろうが，どうでも自分たちの自由に食べたらいいではないか，それがどうなのだ．」と云うと海のごめは所在無げにしている，けれども私はそれを少しも構わず海の上をゆっくりとおよいで，もう日が暮れようとしている時に，私の海へ着いた．

我听了后笑道：“这是我给人们的东西，已经属于他们自己的了，他们想用镰刀刺他们的东西，或是想用斧头削他们的东西都是他们的自由，他们想怎么吃掉它也都可以，有什么不对吗？”我这样说了之后，海里的沙丁鱼目瞪口呆，然而我一点儿都不在乎，继续在海上慢慢地往回游去，到了将近日落时分，我到了原来哥哥们姐姐们所在的地方。

見ると十二人の兄様，十二人の姉様は，彼の半分の鯨をはこびきれなくて，みんなで掛声高く海の東にグズグズしている．私は実にあきれてしまった．私はそれに構わずに家へ帰り，高床の上にすわった．そこで後ふりかえって人間の世界の方を見ると，私が打ち上げた一ツ半の鯨のまわりをとりまいて，りっぱな男たちやりっぱな女たちが盛装して海幸をば喜び舞い海幸をば歓び躍り，後の砂丘の上にはりっぱな敷物が敷かれて，その上にオタシュッ村の村長が六枚の着物に帯を束ね，六枚の着物を羽織って，りっぱな神の冠，先祖の冠を頭に冠り，神授の剣を腰に佩き，神の様に美しい様子で手を高くさし上げ礼拝をしている．人間たちは泣いて海幸をよろこんでいる．

我看到哥哥们十二个人和姐姐们十二个人没能够顺利搬走这半个鲸，大家都高叫着口号，在海的东面搬着鲸磨磨蹭蹭地走着。我实在是

无语了，我没管他们，自己回到家中，坐到高台上面。然后我回过头来去看那个人类村子的状况，我推到岸边的那一个半鲸鱼的周围，围了一堆衣着华丽的男男女女，他们身着盛装围着鲸鱼跳舞，一片欢欣雀跃的景象，他们后面的沙丘上铺下了华丽的铺垫，铺垫上奥塔修茨村的村长身穿六层衣服，束着带子，又披了六层披风，头戴华丽的神冠——即先祖神的帽子，腰里佩戴着神授予的剑，打扮得像神一样俊美，双手高高扬起，向着这个大海味行礼跪拜。人们对这个大海味喜极而泣。

何をごめが人間たちが斧で鎌で私の押し上げた鯨を突っついていると云ったが，村長をはじめ村民は，昔から宝物の最も尊いものとしている神剣を取り出して，それで肉を斬って搬んでいる．それから，私の兄様たち姉様たちは帰って来る様子もない．

沙丁鱼在说什么人们用斧头和镰刀粗暴地砍刺我推上岸的这个鲸，然而我看到的则是由村长带头，村民们一起取出从古至今一直最被尊奉的神剑，来切下大海味的肉而后搬走。我又回头看了看哥哥们和姐姐们这边，他们都还没有能到家的样子。

二日三日たった時，窗の方に何か見える様だ，それで振りかえって見て見ると，東の窗の上にかねの盃にあふれる程酒がはいっていて，その上に御幣を取りつけた酒箸が載っていて，行きつ戾りつ使者としての口上を述べて云うには，「私はオタシュツ村の人で，畏れ多い事ながらおみきを差し上げます．」

这样过了两三天，窗边好像有什么东西出现了，我回头看了看，东侧的窗户边上出现了金酒杯，杯里斟满了酒，就快要溢出来了一样满，酒杯上还放着酒筷，酒筷用御币装饰着，另外还有使者在来回行走，他向我说道："我是奥塔修茨村里的人，非常不敢当，我是来向您敬送神酒的。"

とオタシュツ村の村長が村民一同を代表して，私に礼をのべる次

第をくわしく話し，「トミンカリクル　カムイカリクル　イソヤンケクル，大神様，勇ましい神様でなくて誰が，この様に私たちの村に饑饉があってもう，どうにも仕様がない程食物に窮している時に哀れんで下されましょう．私たちの村に生命を与えて下さいました事，誠に有難う御座います，海幸をよろこび少しの酒を作りまして，小さな幣を添え，大神様に謝礼申し上げる次第であります．」という事を幣つきの酒箸が行きつ戻りつ申し立てた．

奥塔修茨村的村长代表村民向我说完一堆叙礼之辞，又说道：“托明咔里库—咔穆依咔里库—伊索洋凯库大神大人，不是勇武的大神您还有谁能够这样，看到我们村子里发生了饥馑，食物没有着落，已经到了山穷水尽的地步时，能够可怜我们。您给了我们村子生命，万分感谢！谢谢您给予我们的海味，我们做了一些酒，附上御币，作为谢礼，希望您能收下。”他边这样说着，身旁的使者边不停地将带有御币的酒筷和酒器送往我这边，来回不停。

それで私は起き上って，かねの盃を取り，押しいただいて上の座の六つの酒樽の蓋を開き，美酒を少しずつ入れて，かねの盃を窗の上にのせた．

我于是起身端起金酒杯，打开上座上面排列着的六座酒樽的盖子，把杯里的美酒往各个酒樽里都倒入了一点，然后将金酒杯放在了它们上方。

それが済むと，高床の上に腰を下し見ると彼の盃は箸と共になくなっていた．それから，鞘を刻み鞘を彫り，していてやがてふと面をあげて見ると，家の中は美しい幣で一ぱいになっていて，家の中は白い雲がたなびき白いいなびかりがピカピカ光っている．私はああ美しいと思った．

这些做完，我在高台上坐下，不久，那个酒杯和酒筷都不见了。我

又开始雕刻剑鞘，做了许久，终于抬起头时，看到家中到处都被美丽的御币装饰，家中白云延延，白色闪电闪闪发亮[注]。我想，啊这个是多么漂亮！

それからまた，二日三日たつと，その時やっと，家のそとで，兄様たちや姉様たちが掛声高く彼の鯨を引っ張って来たのがきこえだした．私はあきれてしまった．家の中へはいる様子を眺めると，兄様たちや姉様たちはたいへん疲れて，顔色も萎れている．みんなはいって来て，沢山の幣を見ると，驚いてみんななん遍もなん遍も拝した．

然后又过了两三天，终于，家外面传来了哥哥们和姐姐们高喊口号拖着那个鲸回来的声音。我又是无语了。我看他们进入家里后的样子，哥哥们和姐姐们都非常非常地疲倦，脸上都无精打采。大家都进来，看到如此之多的御币，个个都惊呆，大家都向神拜了又拜。

そのうちに，東の座の六つの酒樽は溢れるばかりになって，神の好物の酒の香が家の中に漂うた．それから私は，美しい幣で家の中を飾りつけ，遠方の神，近所の神を招待し盛んな酒宴を張った．姉様たちは鯨を煮て，神たちに出すと，神たちは，舌鼓を打ってよろこんだ．

在这期间，东侧位子上的六座酒樽里，酒都快要溢出来了，神灵所喜欢的酒的香味飘满了整个家中。之后，我用美丽的御币给家中再做装饰，招待远方的神灵和近处的神灵到家中，摆开了盛大的酒宴。姐姐们煮了鲸鱼肉，供奉给神灵们，神灵们享用后很高兴，啧啧咂嘴称赞。

宴酣の頃私は起き上り，斯々，人間世界に饑饉があってあわれに思い，海幸を打ち上げた次第や人間たちをよくしてやると，悪い神々がそれをねたみ，海のごめが私に中傷した事や，オタシュツ村の村長が斯々の言葉をとって私に礼をのべ，幣つきの酒箸が使者になって来た事など詳しく物語ると，神たちは一度に揃って打ちうなずきつつ，

私をほめたたえた．

酒宴酣时，我起身向诸神详细叙说了这个故事，如是说——人类之国发生了饥馑，我觉得他们可怜，将海味推到海岸上，人们以他们的礼仪接受了这个海味，但心术不正的神灵嫉妒他们，海里的沙丁鱼在我面前恶意中伤他们，其实人们的代表奥塔修茨村的村长对我千恩万谢，说了种种谢辞，并派使者将御币装饰的酒具和美酒作为谢礼送与我。说完后，诸神们一块儿点头称赞了我。

それからまた，盛な宴をはり，神たちのそこにここに舞う音，躍る音は美しき響をなし，姉様たちは提子を持って席の間を酌してまわるもあり，女神たちと共に美しい声で歌うもある．二日三日たって宴を閉じた．

之后，酒宴的场面更加盛大，诸神们在这儿那儿跳舞，舞动的声音美妙交响，姐姐们有的拿着酒壶在各个席间斟酒，有的和女神们一同歌唱优美的乐曲，这样持续了两三天酒宴才结束。

神々に美しい幣を二つ三つずつ上げると神々は腰の央をギックリ屈めてなん遍もなん遍も礼をして，みんな自分の家に立ち帰った．

最后我向诸神各自赠送了两三个美丽的御币，诸神几次弯腰恭敬地向我谢过，之后就各自回家了。

そのあと，何時でも同じく長い兄様，六人の兄様，長い姉様，六人の姉様，短い姉様，六人の姉様，短い兄様，六人の兄様と一しょにい，人間たちが酒を造るとその度毎に私に酒を送り私のところへ幣をよこす．

从那以后，不论何时人们都和我的六个高个儿哥哥们、六个高个儿姐姐们、六个矮个儿哥哥们、六个矮个儿姐姐们一样，每次造酒时都会

给我送来美酒和御币。

今はもう，人間たちも食物の不足もなんの困る事も無く平穏に暮しているので，私は安心をしています.

现在，人们已经没有了食物不足的困扰，安稳地生活着，我也对此安心了。

---

1. 这是来形容御币装饰的美丽样子之词。

蛙が自らを歌った謡「トーロロ ハンロク ハンロク！」
蛙吟唱的歌谣“吐噜噜 哈罗库 哈罗库”

トーロロ ハンロク ハンロク!

吐噜噜 哈罗库 哈罗库!

「ある日に，草原を飛び廻って遊んでいるうちに見ると，一軒の家があるので戸口へ行って見ると，家の内に宝の積んである側に高床がある．その高床の上に一人の若者が鞘を刻んでうつむいていたので，私は悪戯をしかけようと思って敷居の上に坐って，「トーロロ　ハンロク　ハンロク！」と鳴いた，ところが，彼の若者は刀持つ手を上げ私を見ると，ニッコリ笑って，

有一天，我在草地上跳来跳去，纵情玩耍之时，发现了一户人家，我跳进门口向里面望去，发现屋内堆满了金银财宝，财宝的旁边是高高的地板。那地板上正坐着一位在雕刻剑鞘的年轻人，我想捉弄捉弄他，便跳到门槛上坐下，“吐噜噜　哈罗库　哈罗库！”地叫出声来，谁想到，那年轻人发现是我后，抬起持刀的手，竟嬉笑道：

「それはお前の謡かえ？お前の喜びの歌かえ？もっと聞きたいね．」

“那是你唱的歌么？是你高兴时唱的歌？真想再多听一些啊！”

というので私はよろこんで「トーロロ　ハンロク　ハンロク！」と鳴くと，彼の若者のいう事には，

听他这么一说，我便欣喜地继续叫道：“吐噜噜　　哈罗库　　哈罗库！”年轻人说道：

「それはお前のユーカラかえ？ サケハウかえ？ もっと近くで聞きたいね．」

“那是你作的叙事诗么？还是你跳的踢踏舞？真想再离近一些听听啊！”

私はそれをきいて嬉しく思い下座の方の炉縁の上へピョンと飛んで，「トーロロ　ハンロク　ハンロク！」と鳴くと彼の若者のいうことには，

听他这么一说，我得意地跃到下座的火炉边缘，尽情地叫道：“吐噜噜 哈罗库 哈罗库！”年轻人说道：

「それはお前のユーカラかえ？ サケハウかえ？ もっと近くで聞きたいね．」

“那是你作的叙事诗么？还是你跳的踢踏舞？真想再离近一些听听啊！”

それを聞くと私は，本当に嬉しくなって，上座の方の炉縁の隅のところへピョンと飛んで，「トーロロ　ハンロク　ハンロク！」と鳴いたら突然，彼の若者がパッと起ち上ったかと思うと，大きな薪の燃えさしを取り上げて私の上へ投げつけた音は体の前がふさがったように思われて，それっきりどうなったかわからなくなってしまった．

听他这么一说，我喜出望外，一跃来到上座的炉边，尽情地叫道：“吐噜噜　哈罗库　哈罗库！”就在此时，忽然，那年轻人猛地站起来，举起一把巨大的尚存余烬的柴火，朝我头上扔了过来。我感觉到身体前方好像撞到了什么，听到了撞击的声音，随后便失去了意识。

ふと気がついて見たら，芥捨場の末に，一つの腹のふくれた蛙が死んでいて，その耳と耳との間に私はすわっていた．

待我恢复知觉后才注意到，房间的角落里躺着一只胀破了肚子的死蛙，而我正坐在它双耳之间。

ょく見ると，ただの人間の家だと思ったのは，オキキリムイ，神の様に強い方の家なのであった，そしてオキキリムイだという事も知らずに私が悪戯をしたのであった．私はもう今この様につまらない死方，悪い死方をするのだから，これからの蛙たちょ，決して人間たちに悪戯をするのではないょ．

我仔细分辨才发现，原以为这儿只是户普通人家，谁知竟是人类始祖的房子。我对此丝毫没有察觉，就对人类始祖恶作剧，捉弄他，以至于像我现在这样，真是死有余辜。所以蛙们哟，从今以后绝不可以再戏弄人类了啊。

と，ふくれた蛙が云いながら死んでしまった．

——肿着肚子的蛙，说着说着就死掉了。

小オキキリムイが自ら歌った謡「クツニサ クトンクトン」
小人类始祖吟唱的歌谣“库茨尼撒 库嗵库嗵”

クツニサ クトンクトン

库茨尼撒 库嗵库嗵

ある日に水源の方へ遊びに出かけたら，水源に一人の小男が胡桃の木の簗をたてるため杭を打つのに腰を曲げ曲げしている．私を見ると，いう事には，

某一天，我外出到水源处游玩，看到一个瘦小的男子，为了建造胡桃木的鱼梁，正弯腰敲打着木桩。他看到我，说道：

「誰だ？ 私の甥よ，私に手伝ってお呉れ．」という．

“是谁啊，哦，是我的外甥呀，快过来给我帮忙。”

見ると，胡桃の簗なものだから，胡桃の水，濁った水が流れて来て，鮭どもが上って来ると胡桃の水が嫌なので泣きながら帰ってゆく．

我一看，那沾到了胡桃木鱼梁的水，化作了带胡桃木味的水、污浊的水。逆流而上的鲑鱼们讨厌沾染了胡桃木味的水，纷纷哭泣着返回游走。

私は腹が立ったので小男の持っている杭を打つ槌を引ったくり，

小男の腰の央を私がたたく音がポンと響いた．小男の腰の央を折ってしまって殺してしまい，地獄へ踏み落してやった．彼の胡桃の杭を揺り動かして見ると，六つの地獄の彼方まで届いている様だ．

我怒不可遏，于是从那男人手中抢走打桩的榔头，将他的腰敲得咚咚作响。那个瘦小的男人就这样被我拦腰截断，被我就地弄死，我顺势将他跺入地狱。我又见到他的胡桃木桩摇摆个不停，便想将它们连同那男人一同送入六途地狱。

それから，私は腰の力，からだ中の力を出して，その杭を根本から折ってしまい，地獄へ踏み落してしまった．

此后，我使出全身之力，将那木桩连根折断，向地狱深处扔去。

水源から清い風，清い水が流れて来て，泣きながら帰って行った．鮭どもは清い風，清い水に気を恢復して，大さわぎ大笑いして遊びながら，パチャパチャと上って来た．私はそれを見て，安心をし流れに沿うて帰って来た．

水源里再次出现清风和净水，之前哭着返回原来住所的鲑鱼们也随着清风和净水的流动恢复了精神，它们大声地嬉笑玩耍，啪嗒啪嗒地逆流游了上来。我看到这一切，才安下了心，顺流返回家中。

と小さいオキキリムイが物語った．

——以上就是小人类始祖所讲的故事。

小オキキリムイが自ら歌った謡「この砂赤い赤い」
小人类始祖吟唱的歌谣“这砂红又红”

〔この砂赤い赤い〕

（这砂红又红）

ある日に流れをさかのぼって遊びに出かけたら，悪魔の子に出会った．

某一天，我逆流而上去玩耍，途中遇到了恶魔之子。

いつでも悪魔の子は様子が美しい，顔が美しい．黒い衣を着けて胡桃の小弓に胡桃の小矢を持っていて，私を見ると，ニコニコしていうことには，

那恶魔之子的身姿无论何时都是那样美丽，容貌也是那样俊美。身穿黑衣，手里拿着胡桃木制的小弓和小箭的他，看到我，喜笑颜开地说道：

「小オキキリムイ，遊ぼう．さあこれから，魚の根を絶やして見せよう．」

“小家伙呵，快来玩啊！来啊，让你看看，我要让这里的鱼绝种。”

と言って，胡桃の小弓に胡桃の小矢を番え水源の方へ矢を射放すと，水源から胡桃の水，濁った水が流れ出し，鮭どもが上って来ると胡桃の水が厭なので泣きながら引き返して流れて行く．悪魔の子はそれをニコニコしている．

说完，他拈弓搭箭，将胡桃木做的箭射向水源。从水源处流出带胡桃木味的水，污水涌了出来。逆流而上的鲑鱼们，因厌恶这胡桃木的水，边哭着边顺流而返。恶魔之子嬉笑不停。

私はそれを見て腹が立ったので，私の持っていた，銀の小弓に銀の小矢を番え水源へ矢を射はなすと，水源から銀の水，清い水が流れ出し，泣きながら流れて行った鮭どもは清い水に元気を恢復し，大笑いをして遊びさわいでパチャパチャ川を上って行った．

我见状心生怒气，用银制的小弓搭上银制的小箭，将箭射向水源，水源中流出如银铃声般清澈的水，清水一涌而出，哭着顺流游去的鲑鱼们借着清水恢复了体力。接着哈哈大笑着嬉闹玩耍，啪嗒啪嗒地逆着河流游走而去。

すると，悪魔の子は，持前の癇癪を顔に表して，

于是，恶魔之子，露出生性暴躁的一面，说道：

「本当にお前そんな事をするなら，鹿の根を絶やして見せよう．」と云って，胡桃の小弓に胡桃の小矢を番え大空を射ると，山の木原から胡桃の風，つむじ風が吹いて来て，山の木原から，牡鹿の群は別に，牝鹿の群はまた別に，風に吹き上げられずーっと天空へきれいにならんで上って行く．

“你若真要做和我相反的事情，我就让那鹿绝种！”说罢，他拈弓搭箭，将胡桃木做的箭射向天空，这时从树林中吹来胡桃木的风，是一股旋风，将雄鹿群和雌鹿群各分开到一边，整齐地排成行刷刷地吹上了天空。

悪魔の子はニコニコしている．

恶魔之子嬉笑不停。

それを見た私はかっと癪にさわったので，銀の小弓に銀の小矢を番えて，鹿の群のあとへ矢を射放すと，天上から，銀の風，清い風が吹き降り，牡鹿の群は別に，牝鹿の群はまた別に，山の木原の上へ吹き下された．

我见状心生怒气，用银制的小弓搭上银制的小箭，向鹿群的后面射去。从天上吹来银铃声般清爽的风，一阵清冽的风，将雄鹿群和雌鹿群，又吹回到了山间树林中。

すると，悪魔の子は持前の癇癪を顔に現し，

恶魔之子，露出生性暴躁的一面，

「生意気な，本当にお前そんな事をするなら，力競べをやろう．」と云いながら上衣を脱いだ．

“你别得意，你若真要和我对着干，就和我比试比试力气吧！”说完，他就脱掉上衣。

私も薄衣一枚になって組み付いた．彼も私に組み付いた．それからは互に下にしたり上にしあったり相撲をとったが，大へんに悪魔の子が力のある事には驚いた．けれども，とうとうある時間に，私は腰の力，からだの力をみんな出して，悪魔の子を肩の上まで引っ担ぎ，山の岩の上へ彼を打ちつけた音ががんと響いた．殺してしまって，地獄へ踏み落したあとはしんと静まり返った．

我也脱得只剩一件单衣，和他扭成一团。之后，我们时而你压住我，时而我压住你地摔起跤来。我对恶魔之子怪异的大力气感到吃惊，但即便如此，最终我还是在某个瞬间，使尽全力，将恶魔之子扛到肩上，接着把他摔在山岩上，他的身体撞击山岩发出了“砰”的巨响。我杀死了他，将他的尸体踩入地狱，于是周围又恢复了宁静。

　　それが済んで，私は流れに沿って帰って来ると，川の中では鮭どもが笑う声遊ぶ声がかまびすしくのぼって来るのがパチャパチャきこえる．山の木原では，牡鹿ども，牝鹿どもが笑う声遊ぶ声がそこら一ぱいになってそこにここに物を食べている．私はそれを見て安心をし，私の家へ帰って来た．

　　随后，我顺流而返，河川中的鲑鱼们喧嚣嬉闹，啪嗒啪嗒地继续作响。山野中雄鹿和雌鹿的嬉笑玩闹声响成一片，它们正这儿那儿地寻找吃食。我看到这一切，才安下心来回到家中。

　　と，小さいオキキリムイが物語った．

　　——以上就是小人类始祖所讲的故事。

獺が自ら歌った謡「カッパ レウレウ カッパ」
水獭吟唱的歌谣“咔啪 来唔 咔啪”

カッパ レウレウ カッパ

咔啪 来唔 咔啪

ある日に，流れに沿うて遊びながら泳いで下り，サマユンクルの水汲路のところに来ると，サマユンクルの妹が神の様な美しい容子で片手に手桶を持ち，片手に蒲の束を持って来ているので，川の縁に私は頭だけ出し，

有一天，我顺着河流游到了类人神汲水的小路旁，恰好碰到类人神的妹妹，美若天仙的她正一手拿着水桶一手持着香蒲走了过来。我从河边伸出了小脑袋，问她：

「お父様をお持ちですか？お母様をお持ちですか？」と云うと，

“你有父亲么？你有母亲么？”

娘さんは驚いて眼をきょろきょろさせ，私を見つけると，怒の色を顔に現して，「まあ，にくらしい扁平頭，悪い扁平頭が人をばかにして．犬たちよ，ココ……」

听到我的声音，少女吃惊地瞪大了眼睛。当她发现我后，面露愠色，说道：“哎呀，这个可憎的扁平头，可恶的扁平头，竟然把人家当傻瓜看，我忠实的猎犬啊，赶快过来……”

と言うと，大きな犬どもが駈け出して来て，私を見ると牙を鳴ら

している．私はビックリして川の底へ潜り込んで，直ぐそのまま川底を通って逃げ下った．

话音刚落，巨犬纷涌而出，露出獠牙冲我嘶叫。我吓得立刻潜入河底，顺流落荒而逃。

そうして，オキキリムイの水汲路の川口へ頭だけだして見ると，オキキリムイの妹が神の様に美しい様子で片手に手桶を持ち，片手に蒲の束を持って来たので，私のいうことには，

之后，我又来到人类主神汲水的小路旁。我露出脑袋，刚好看到人类主神的妹妹，美若天仙的她正一手拿着水桶一手持着香蒲走了过来。

「御父様をお持ちですか？ 御母様をお持ちですか？ 」というと，

我问她："你有父亲么？ 你有母亲么？"

娘さんは驚いて眼をきょろきょろさせ，私を見ると，怒りの色を顔に表して，

少女吃惊地瞪大了眼睛。她发现我后，面露愠色。

「まあ，にくらしい扁平頭，悪い扁平頭が人をばかにして．犬たちよ，ココ……」

"哎呀，这个可憎的扁平头，可恶的扁平头，竟然把人家当傻瓜看，我忠实的猎犬啊，赶快过来……"

と言うと大きな犬どもが駈け出して来た．

话音未落，巨犬已群涌而出，冲着我嘶叫。

それを見て私は先刻の事を思い出し，可笑しく思いながら川の底

へ潜りこんで逃げようとしたら，まさか犬たちがそんな事をしようとは思わなかったのに，牙を鳴らしながら川の底まで私に飛び付き，陸へ私を引き摺り上げ，私の頭も私の体も噛みつかれ噛みむしられて，しまいにどうなったかわからなくなってしまった．

我见状回想起刚才发生的一幕，边想笑边潜入河底准备逃跑，不料巨犬们咆哮着不假思索地跳入河中，连抓带咬把我拖到了岸上。我的头颅，身体被它们撕扯啃裂，最终我失去了意识。

ふと気が付いて見ると，大きな獺の耳と耳の間に私はすわっていた．

之后，当我回过神的时候，发现自己正坐在一只大水獭的双耳之间。

サマユンクルもオキキリムイも父もなく母もないのを私は知って，あんな悪戯をしたので，罰を当てられオキキリムイの犬どもに殺され，つまらない死方，悪い死方をするのです．

无论是类人神或是人类始祖的兄妹，他们皆没有父母。我明明知道这个，却还是恶作剧地捉弄她们，因此受到了惩罚，被人类始祖的猎犬们所杀，真是死不足惜。

これからの獺たちょ，決して悪戯をしなさるな．

所以水獭们，从今以后，绝不可以再恶作剧啊！

と，獺が物語った．

以上就是水獭所讲的故事。

沼貝が自ら歌った謡「トヌペカ ランラン」
河蚌吟唱的歌谣“淘奴派咯 啷啷”

トヌペカ ランラン

淘奴派咯 啷啷

強烈な日光に私の居る所も乾いてしまって，今にも私は死にそうです．

强烈的日光晒得我的小窝都干涸了，我现在都快要死了。

「誰か，水を飲ませて下すって助けて下さればいい．水ょ水ょ」と私たちが泣き叫んでいますと，ずーっと浜の方から一人の女が籠を背負って来ています．

“有谁能给我们些水喝么？能帮我们一下吗？水啊，水快来啊！”我们边哭边叫喊，这时从海边方向有一个女的背着笼子走了过来。

私たちは泣いていますと，私たちの傍を通り，私たちを見ると，「おかしな沼貝，悪い沼貝，何を泣いてうるさい事さわいでいるのだろう．」と言って，私たちを踏みつけ，足先にかけ飛ばし，貝殻と共につぶしてずーっと山へ行ってしまいました．

她从我们旁边经过，看到我们在哭，就说道：“奇怪的河蚌，真可恶！你们在哭什么啊，吵吵得让人心烦！”接着就使劲踩我们，把我们的壳弄坏，用脚尖将我们踢飞，然后头也不回地朝着山的方向而去。

「おお痛，苦しい，水ょ水ょ．」と泣き叫んでいると，ずっと浜

の方からまた一人の女が籠を背負って来ています．

我们哭喊道：“啊啊，好痛苦！我需要水，我需要水！”这时，又有一个女人背着笼子从海边向这边走来。

私たちは「誰か私たちに水を飲ませて助けて下さるといい，おお痛，おお苦しい，水よ水よ．」と叫び泣きました．

我们哭着求助：“有谁能好心给我们些水喝啊，啊啊好痛苦，我们需要水，我们需要水！”

すると，娘さんは，神の様な美しい気高い様子で私の側へ来て，私たちを見ると，「まあかわいそうに，大へん暑くて沼貝たちの寝床も乾いてしまって，水を欲しがっているのだね，どうしたのでしょう．何だか踏みつけられでもした様だが……」と言いつつ，私たちみんなを拾い集めて蕗の葉に入れて，きれいな湖に入れてくれました．

于是过来的这位如神灵般美丽而高贵的少女来到我们身边，看了我们后说道：“啊，太可怜了，这么热的天，河蚌们的小窝都干了啊，你们一定很需要水是吧。哦，究竟发生了什么事呢，你们好像被谁踩过了的样子……”，她边说边将我们全都捡起来放在蜂斗菜的叶子上，然后到湖边将我们放进了清澈的湖水中。

清い冷水でスッカリ元気を恢復し，大へん丈夫になりました．そこで始めてかの女たちの気性を探って見ると，先に来て，私を踏みつぶしたにくらしい女，わるい女はサマユンクルの妹で，私たちを憫み助けて下さった若い娘さん淑やかな方は，オキキリムイの妹なのでありました．

得到清凉湖水的滋润，我们彻底恢复了元气，身体健壮充盈了起来。这时我们才试着揣测了这两个女人的来历，我们知道了，先来的那

个踩踏我们的、可憎的、本性恶的女人是类人神[注]的妹妹，而可怜、帮助我们的年轻、贤淑的姑娘则是人类始祖的妹妹。

サマユンクルの妹は悪らしいので，その粟畑を枯らしてしまい，オキキリムイの妹のその粟畑をばよく実らせました.

类人神的妹妹令人憎恶，我们就让她地里的粟米枯萎，而让人类始祖妹妹的粟米地里结出丰硕的谷穗。

その年に，オキキリムイの妹は大そう多く収穫をしました.

那一年，人类始祖的妹妹获得了大丰收。

私の故為でそうなった事を知って，沼貝の殻で粟の穂を摘みました．それから，毎年，人間の女たちは粟の穂を摘む時は沼貝の殻を使う様になったのです.

她知道是由于我们的帮助才获得了丰收，便特意用河蚌的壳来采摘成熟的谷穗，让我们也能一同感受丰收的喜悦。从那以后，每年，人类始祖后代的女人们在采摘谷穗时，都会使用河蚌的壳。

と，一つの沼貝が物語りました.

——以上就是一个河蚌所讲的故事。

---

1. 类人神本质是神，但和人的表现无异，传说中他和人类始祖也是兄弟关系。